

症例 ④ 解説

第53回 埼玉県細胞検査士会 鏡検セミナー

症例④ 唾液腺

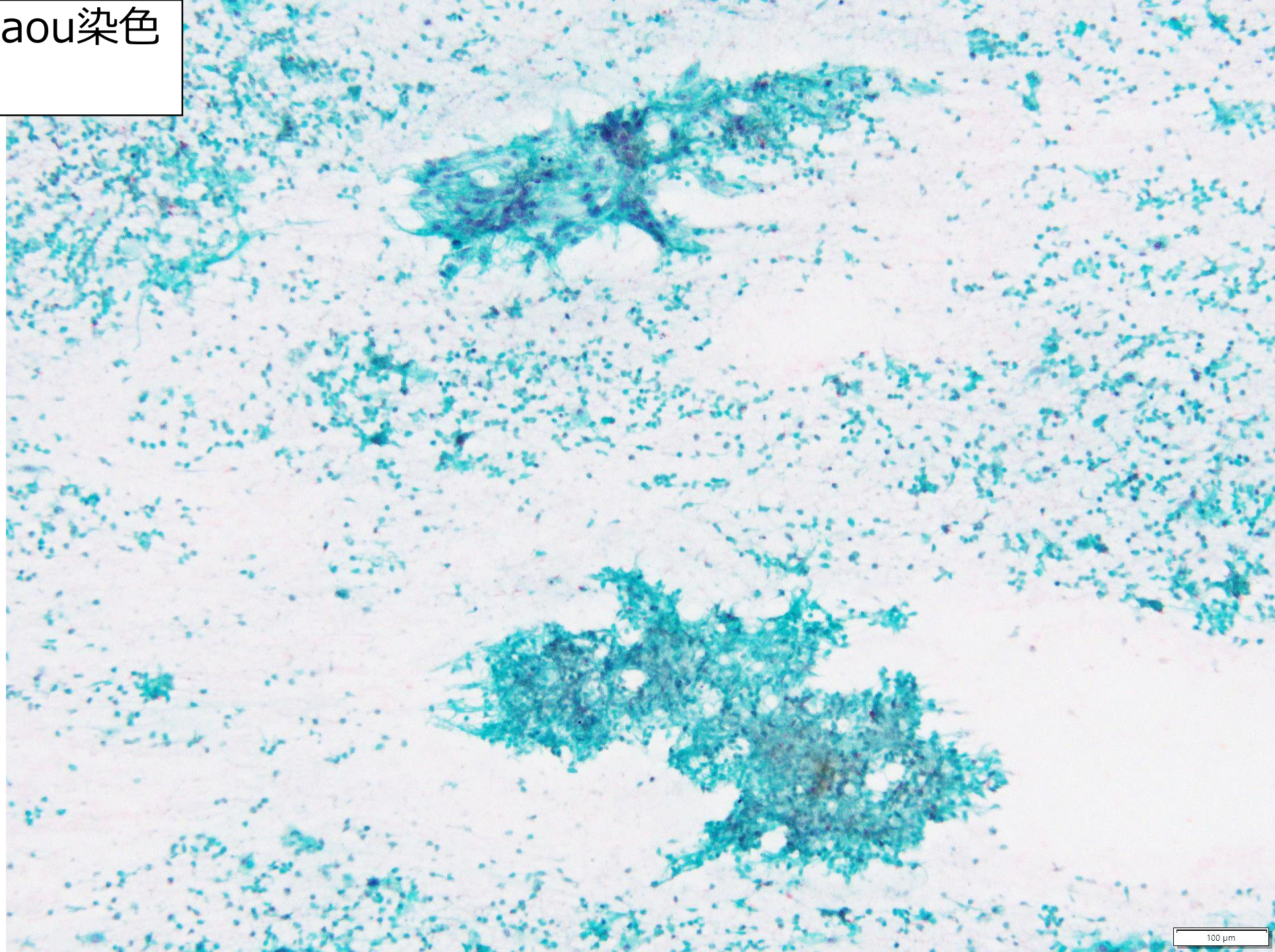
患者情報：50代 男性

材料：右唾液腺腫瘍

既往：耳下腺良性腫瘍で手術加療後

臨床所見：唾液腺腫脹のため細胞診FNA施行。CEA上昇あり。

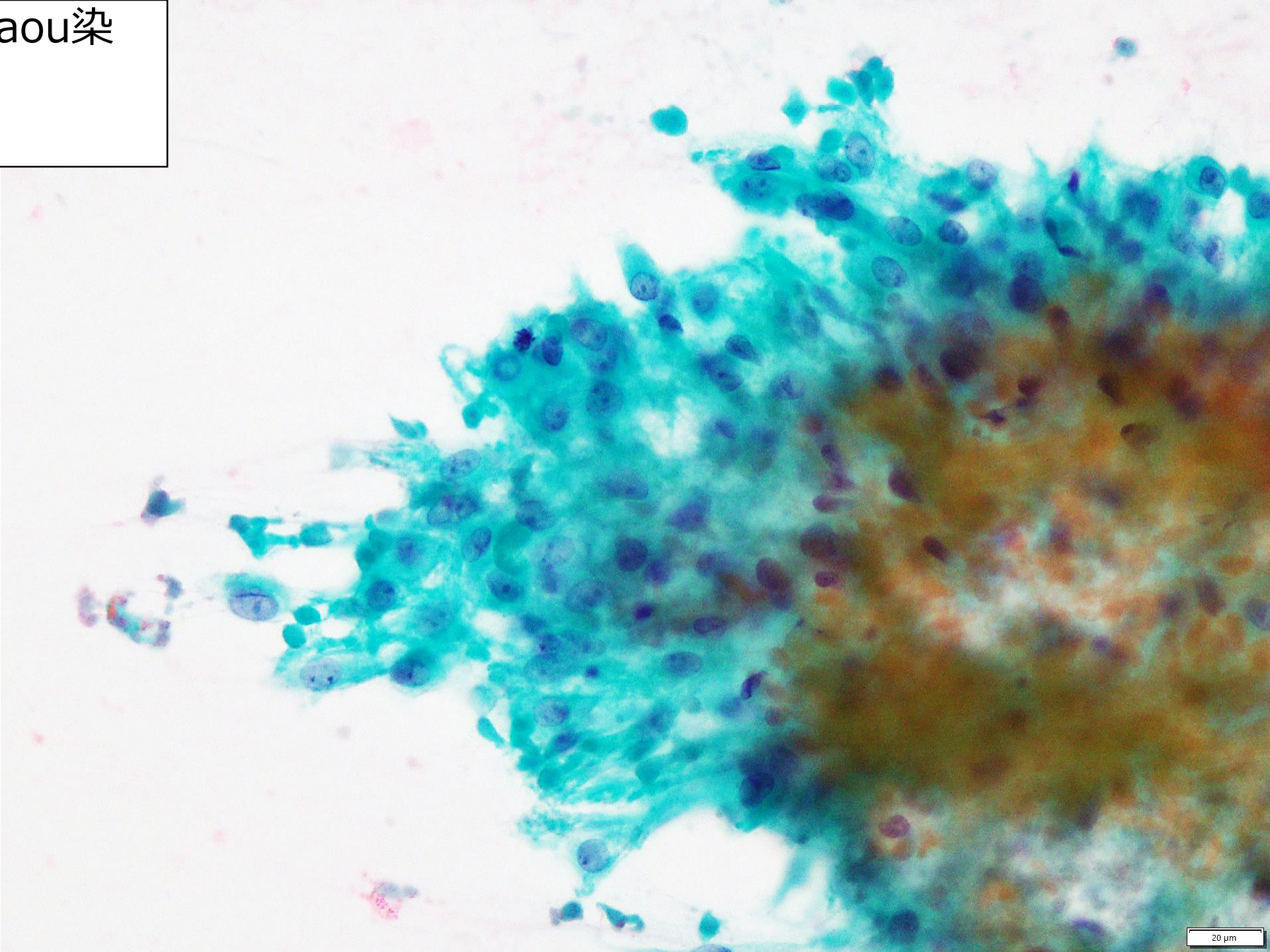
Papanicolaou染色
対物 4 倍



100 μm

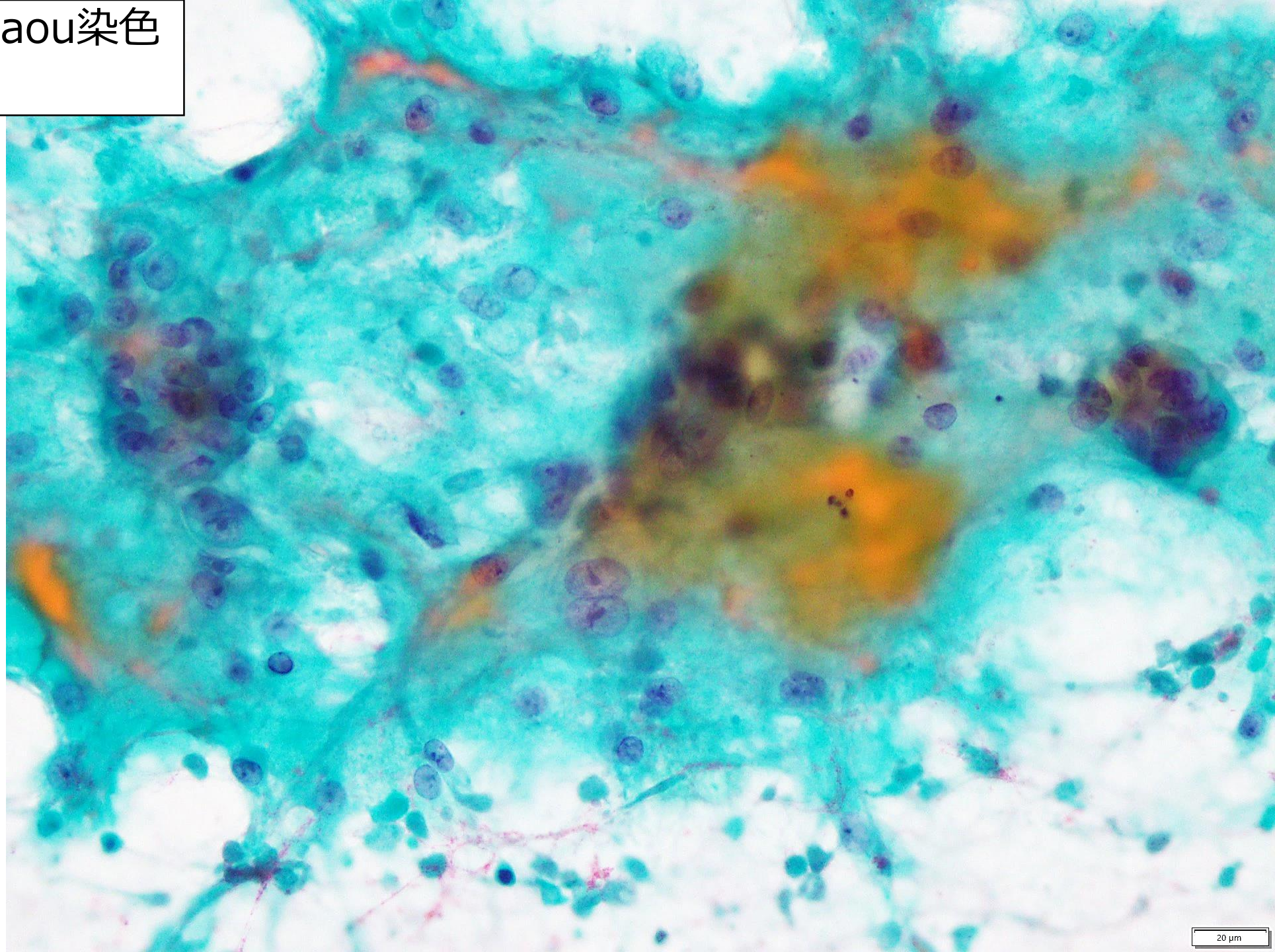
Papanicolaou染色

× 对物 40

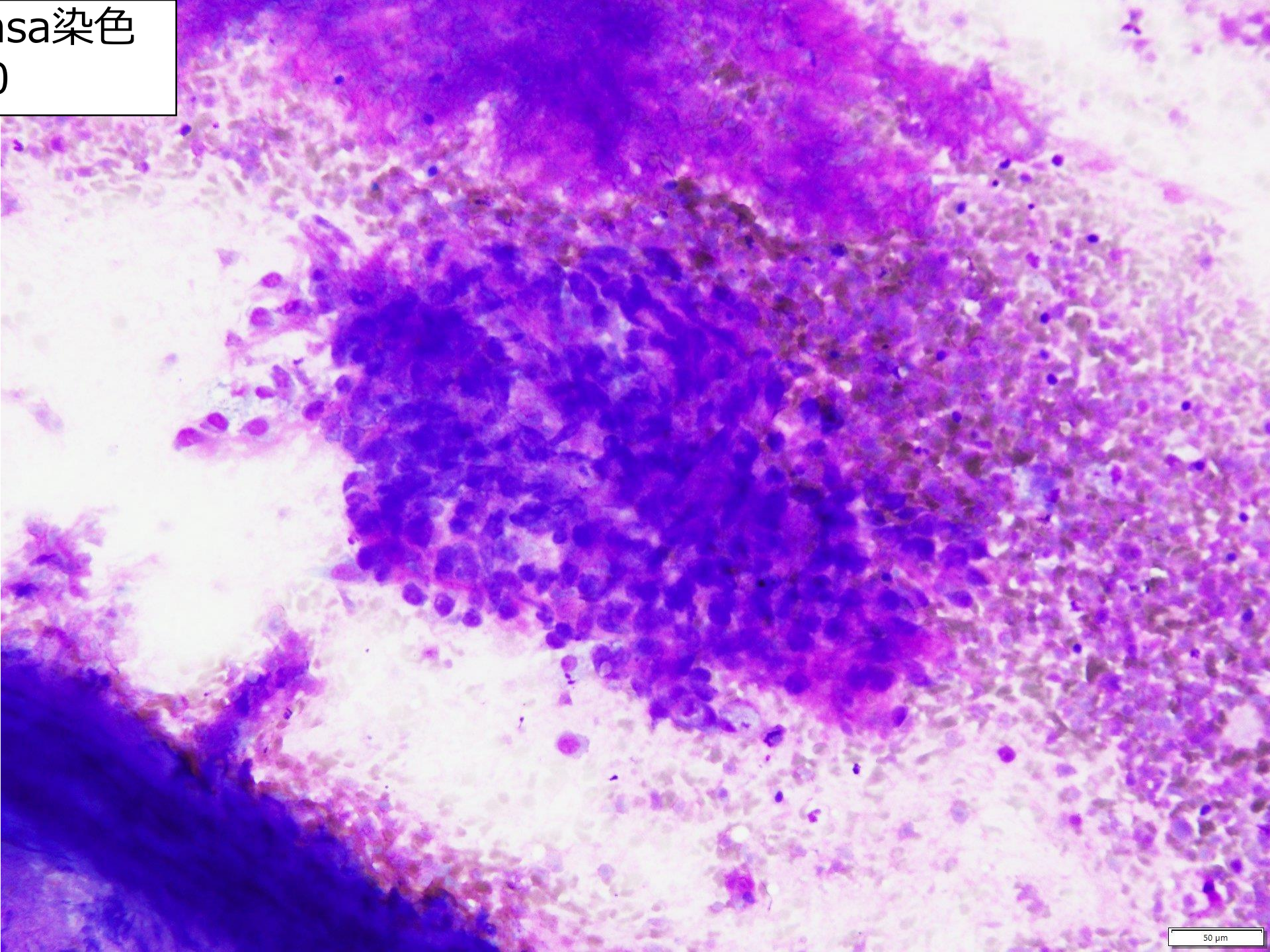


20 μm

Papanicolaou染色
× 対物 40

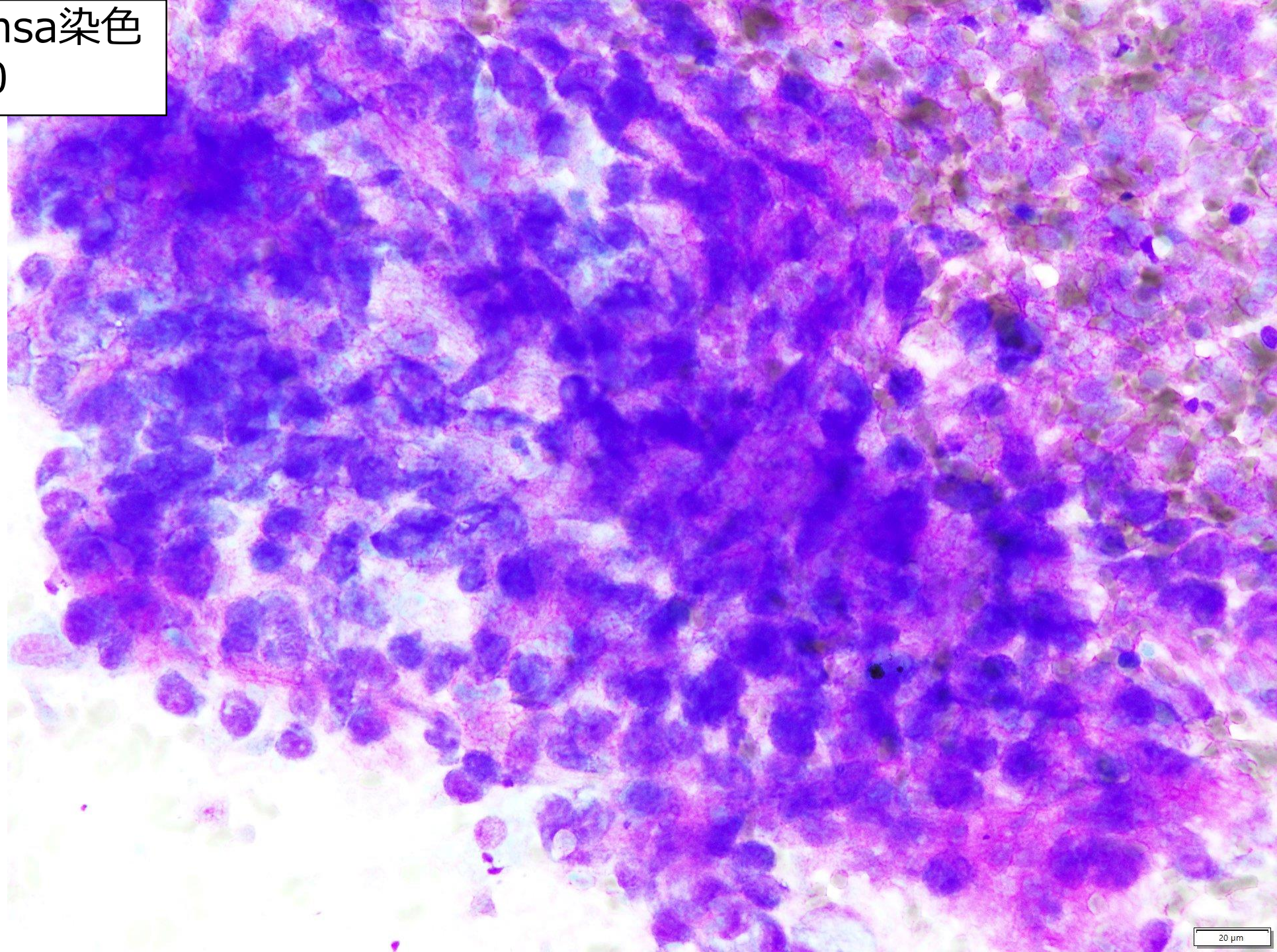


May Giemsa染色
対物 × 10



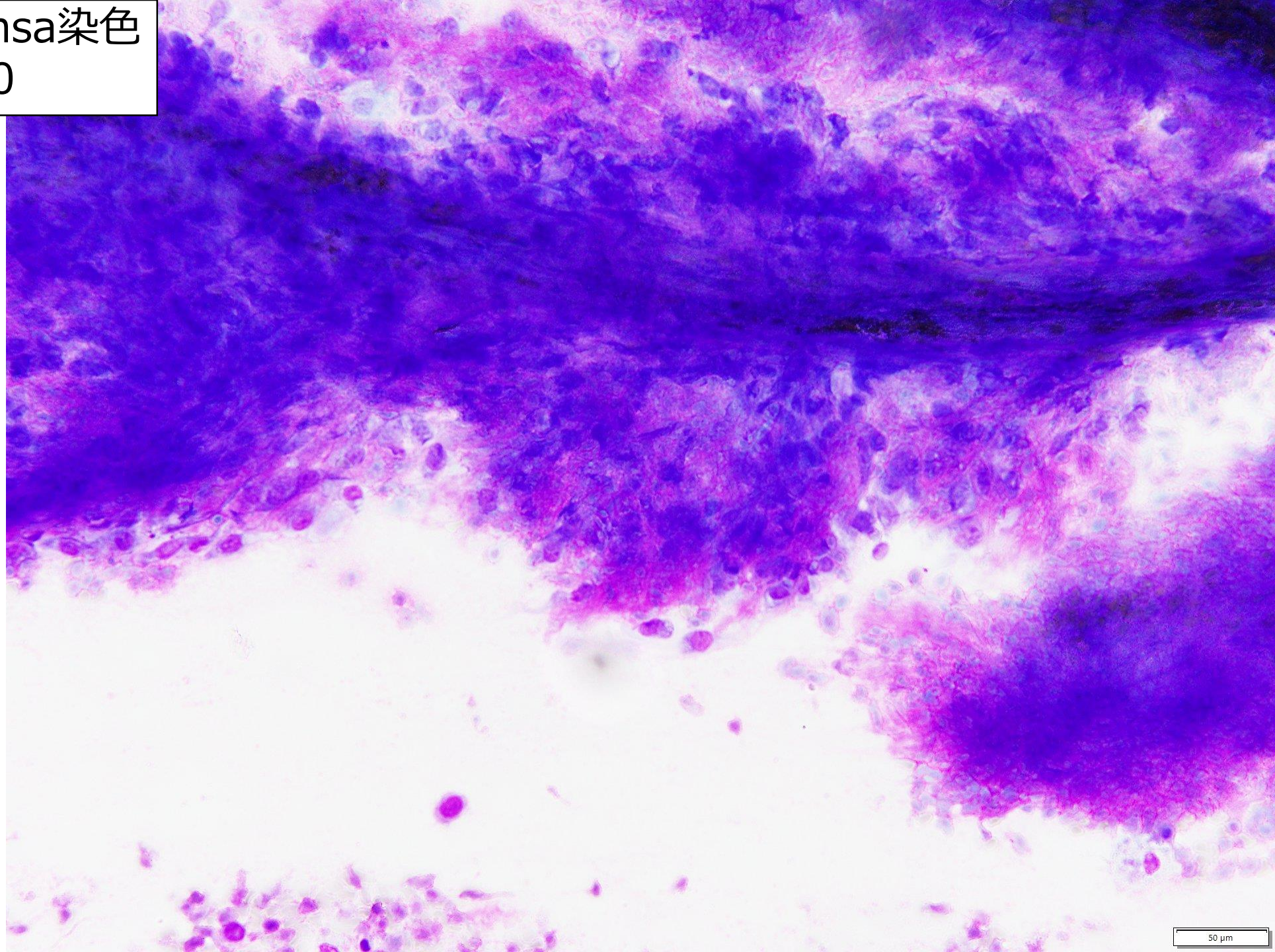
50 μm

May Giemsa染色
対物 × 40



20 μm

May Giemsa染色
対物 × 40



50 μm

症例 ④ 唾液腺

選択肢

- 良性嚢胞性病変
- 多形腺腫
- 多形腺腫由来癌

事前集計

選択肢

- 良性嚢胞性病変 3名
- 多形腺腫 3名
- 多形腺腫由来癌 15名

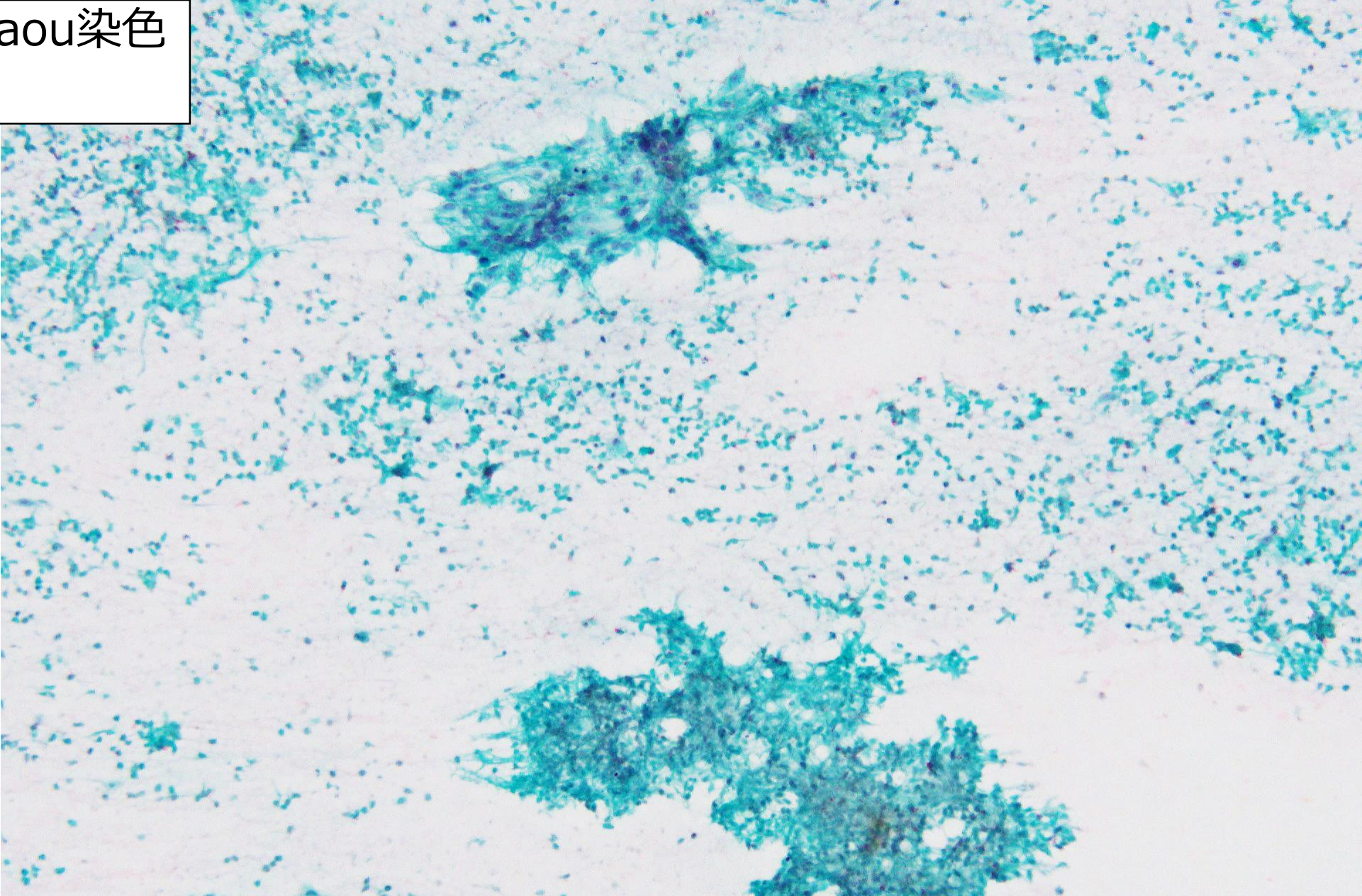
当日集計

選択肢

- 良性嚢胞性病変 7名
- 多形腺腫 7名
- 多形腺腫由来癌 16名

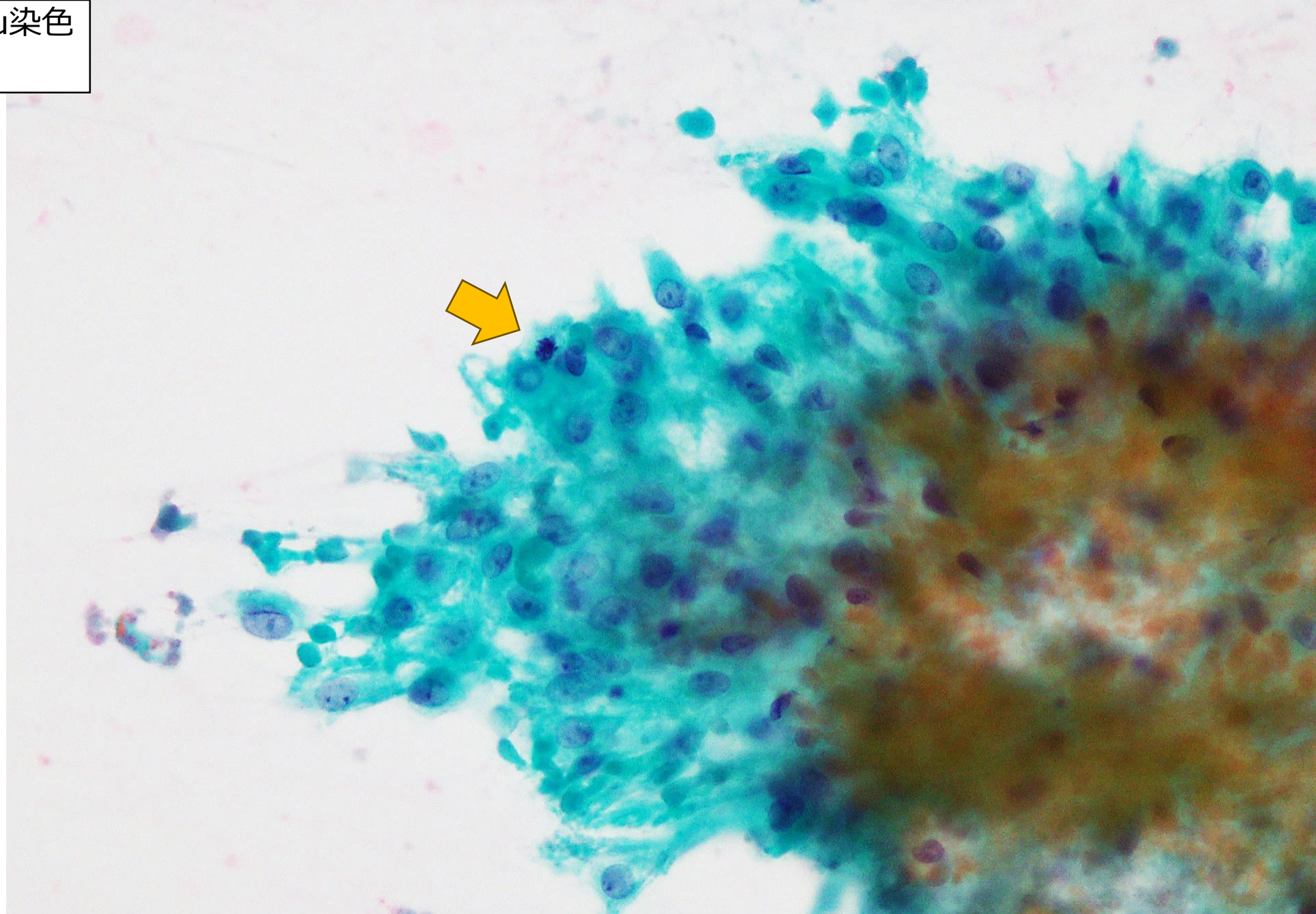
解説

Papanicolaou染色
対物 × 4



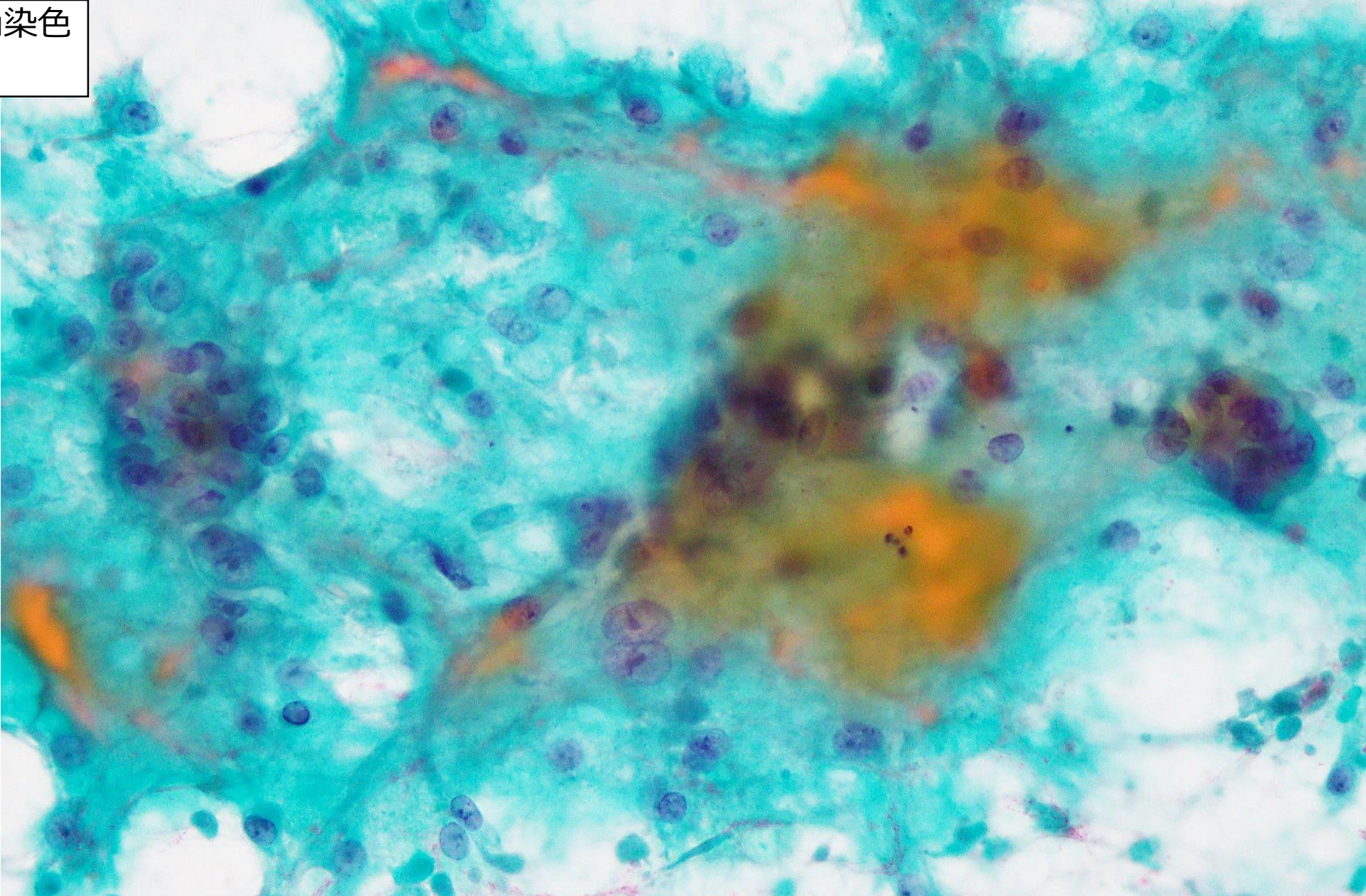
壊死性背景に、異型細胞が散在性あるいは集塊で出現している
異型細胞集塊は、細胞境界が不明瞭で、大部分が壊死成分であった

Papanicolaou染色
対物 × 40



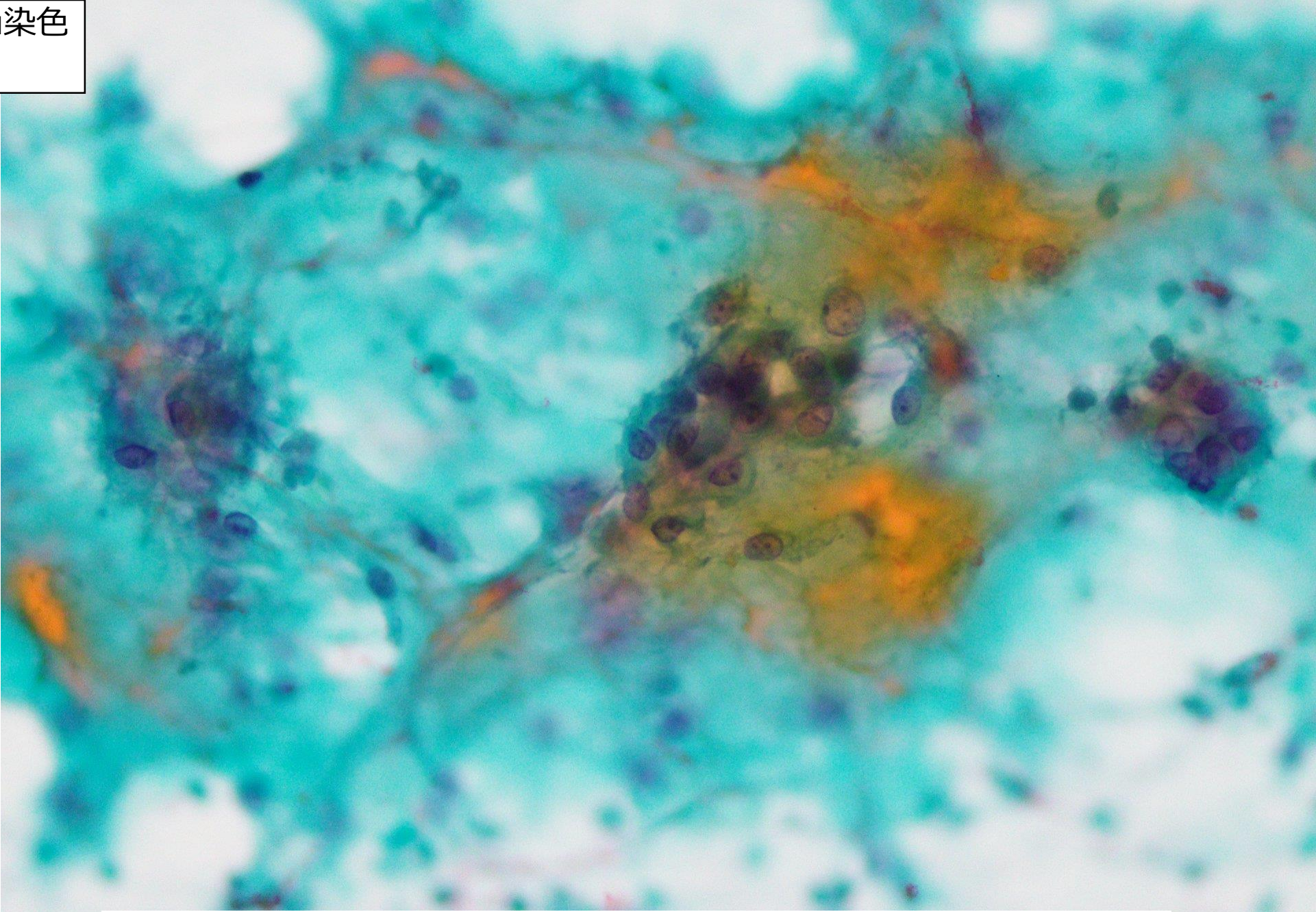
細胞集塊の辺縁は毛羽立ちが目立ち、類円形や卵円様の異型細胞が観察される

Papanicolaou染色
対物× 40



間質粘液とともに核の大小不同や核腫大、核小体の目立つ異型細胞
核には、しわや切れ込みがみられる

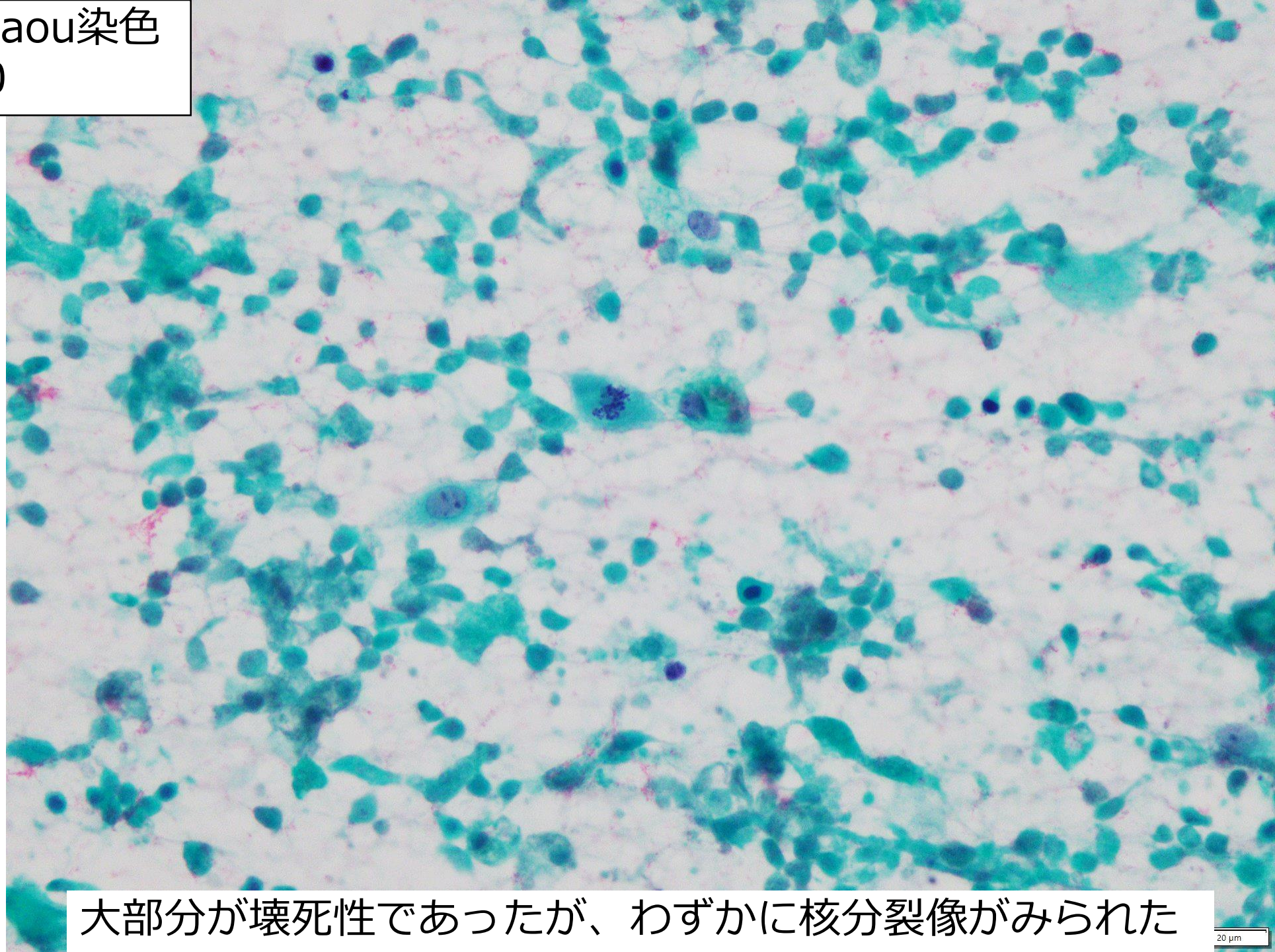
Papanicolaou染色
対物× 40



核間距離が不均等に配列する同様の異型細胞

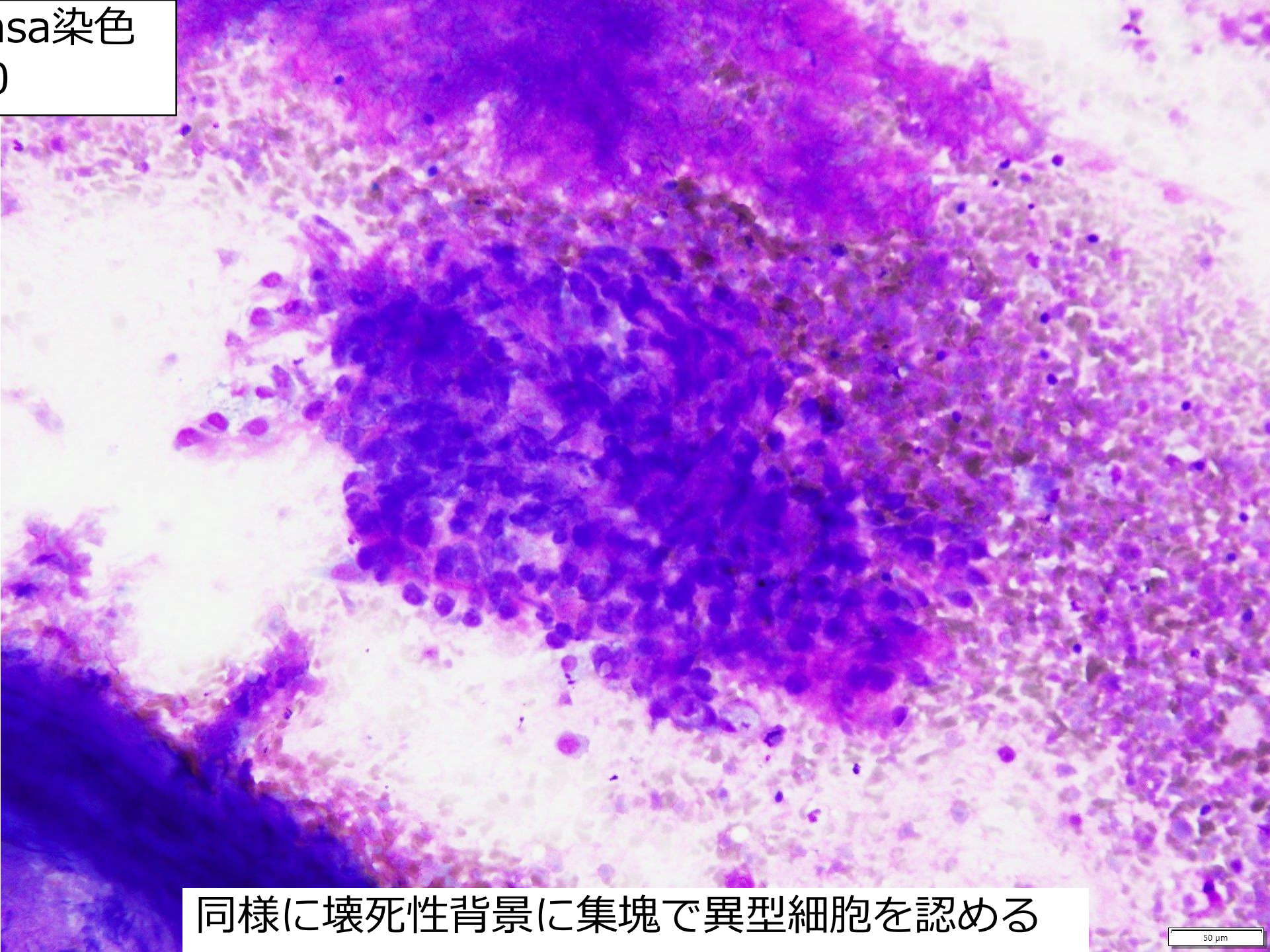
20 μm

Papanicolaou染色
対物 × 40



大部分が壊死性であったが、わずかに核分裂像がみられた

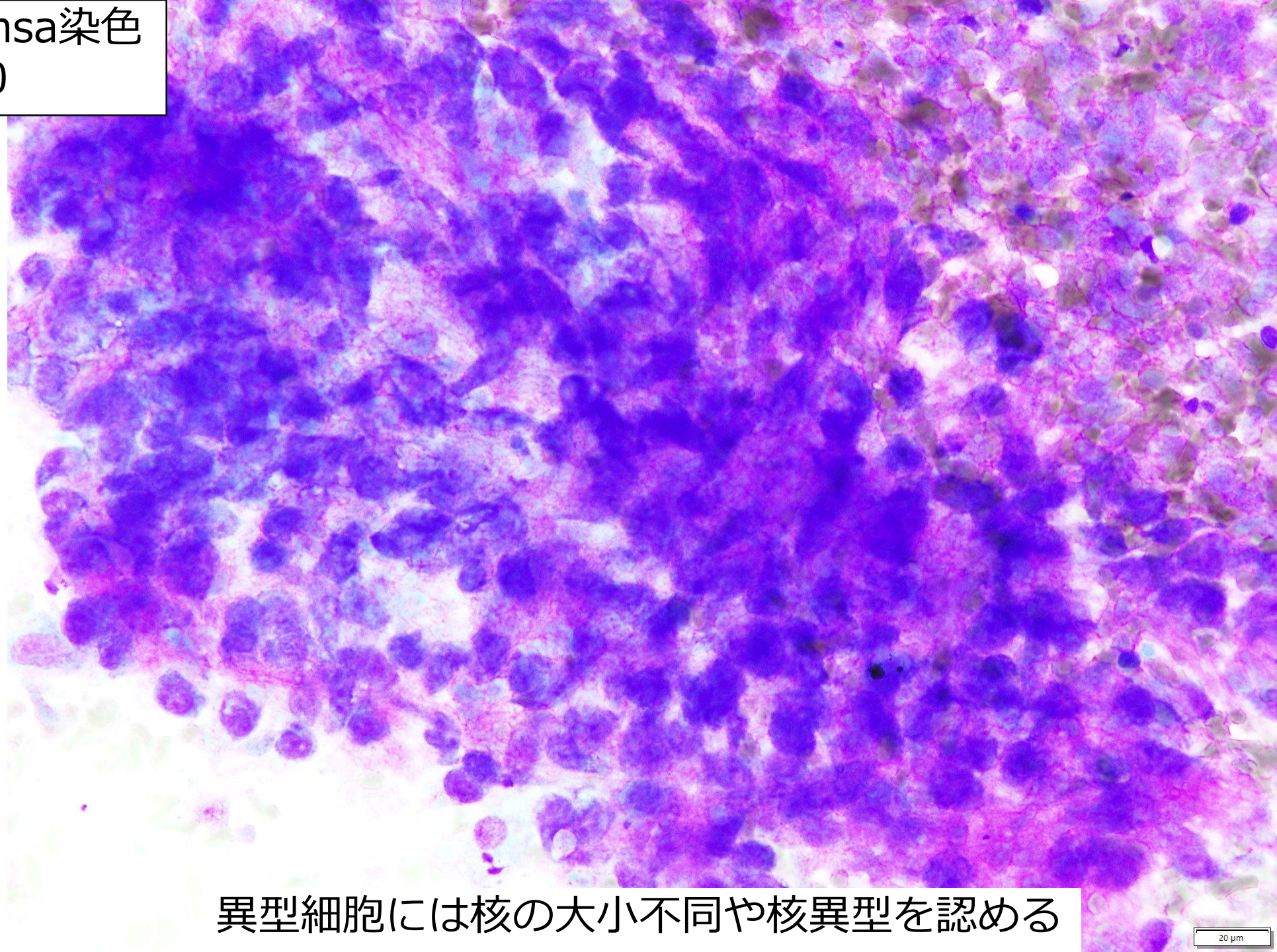
May Giemsa染色
対物 × 10



同様に壊死性背景に集塊で異型細胞を認める

50 μm

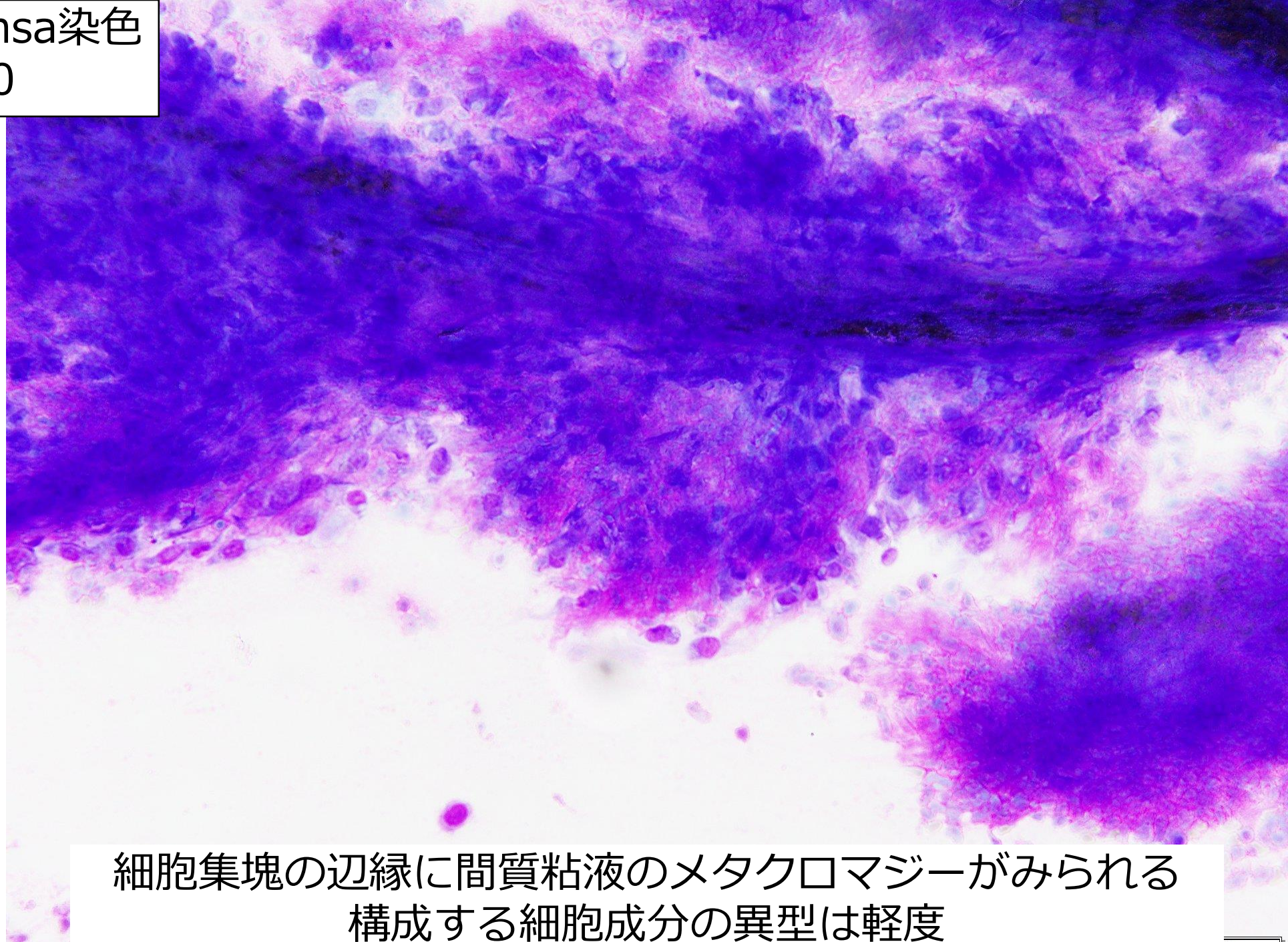
May Giemsa染色
対物 × 40



異型細胞には核の大小不同や核異型を認める

20 μm

May Giemsa染色
対物 × 40



細胞集塊の辺縁に間質粘液のメタクロマジーがみられる
構成する細胞成分の異型は軽度

臨床所見 & 細胞像からの考察

ü 既往に耳下腺良性腫瘍
ü 間質粘液
ü 異型の弱い細胞集塊

⇒ **良性多形腺腫**

ü 壊死
ü 核異型の目立つ細胞
ü ただし異型細胞は少数

⇒ **悪性腫瘍？**

細胞判定

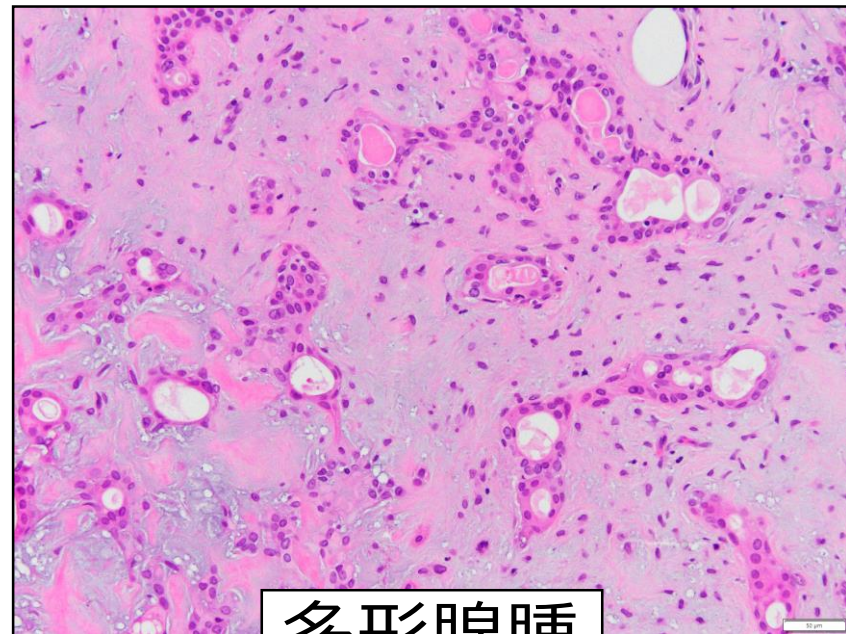
多形腺腫も疑われるが、背景に壊死がみられ異型の強い細胞が認められることから悪性の可能性も否定できない

- クラス分類 Class III
- 判定 Atypical cells.

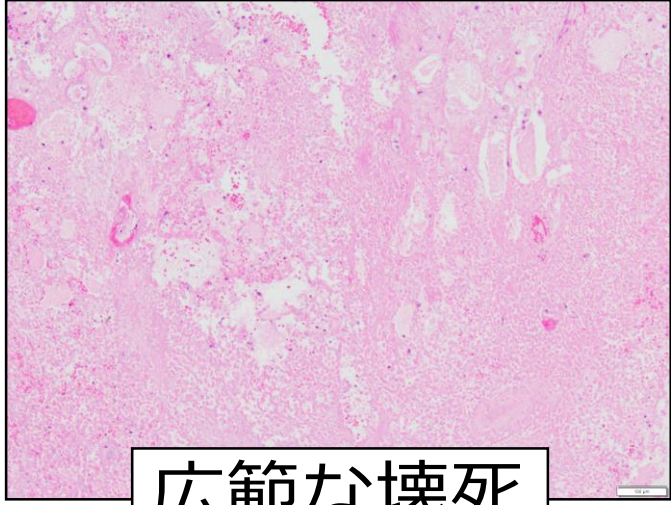
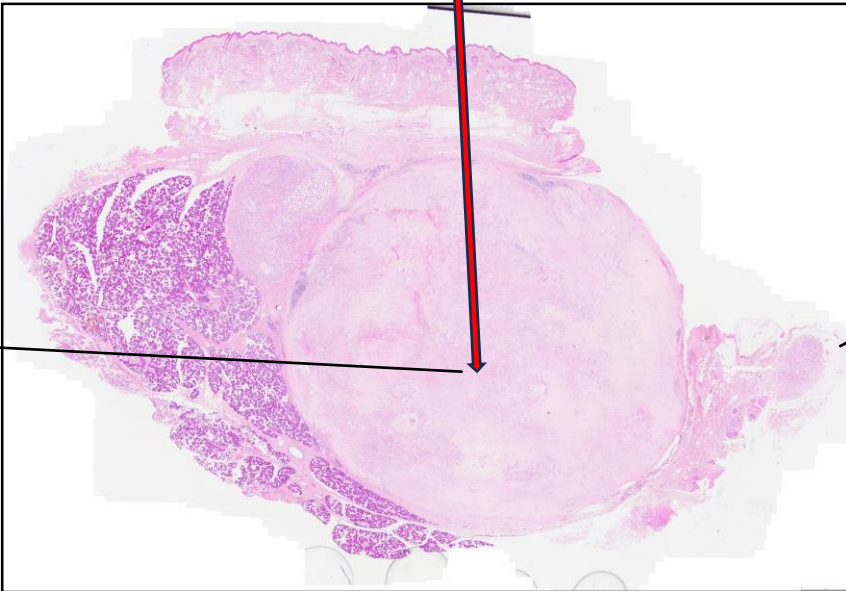
組織所見

右耳下腺腫瘍摘出検体

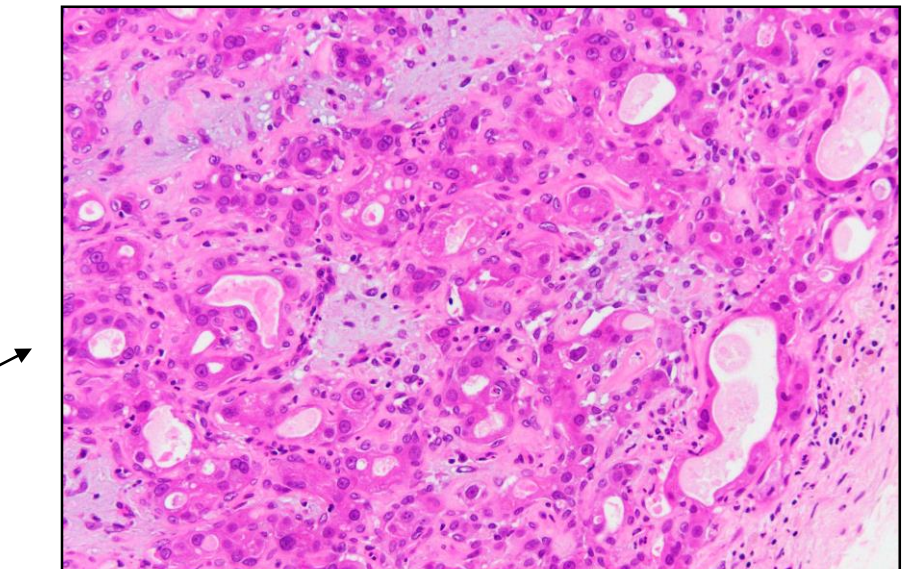
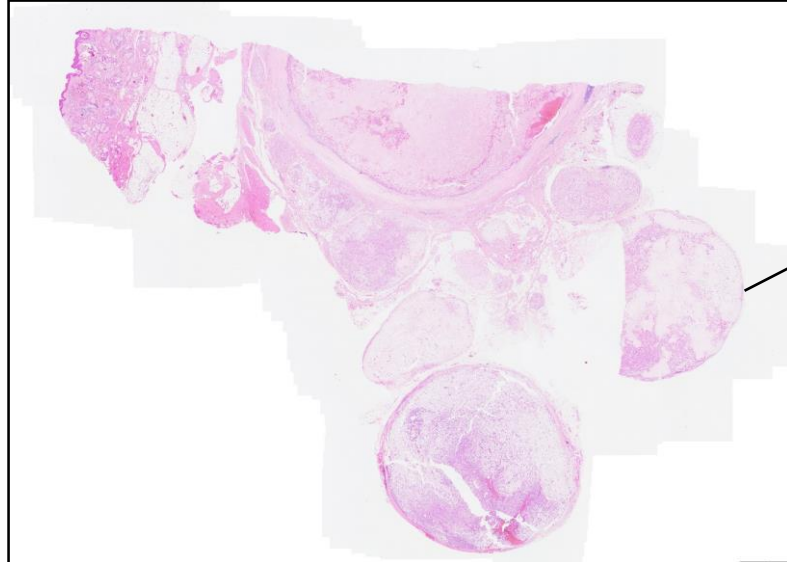
多結節性病変 (再発)



多形腺腫

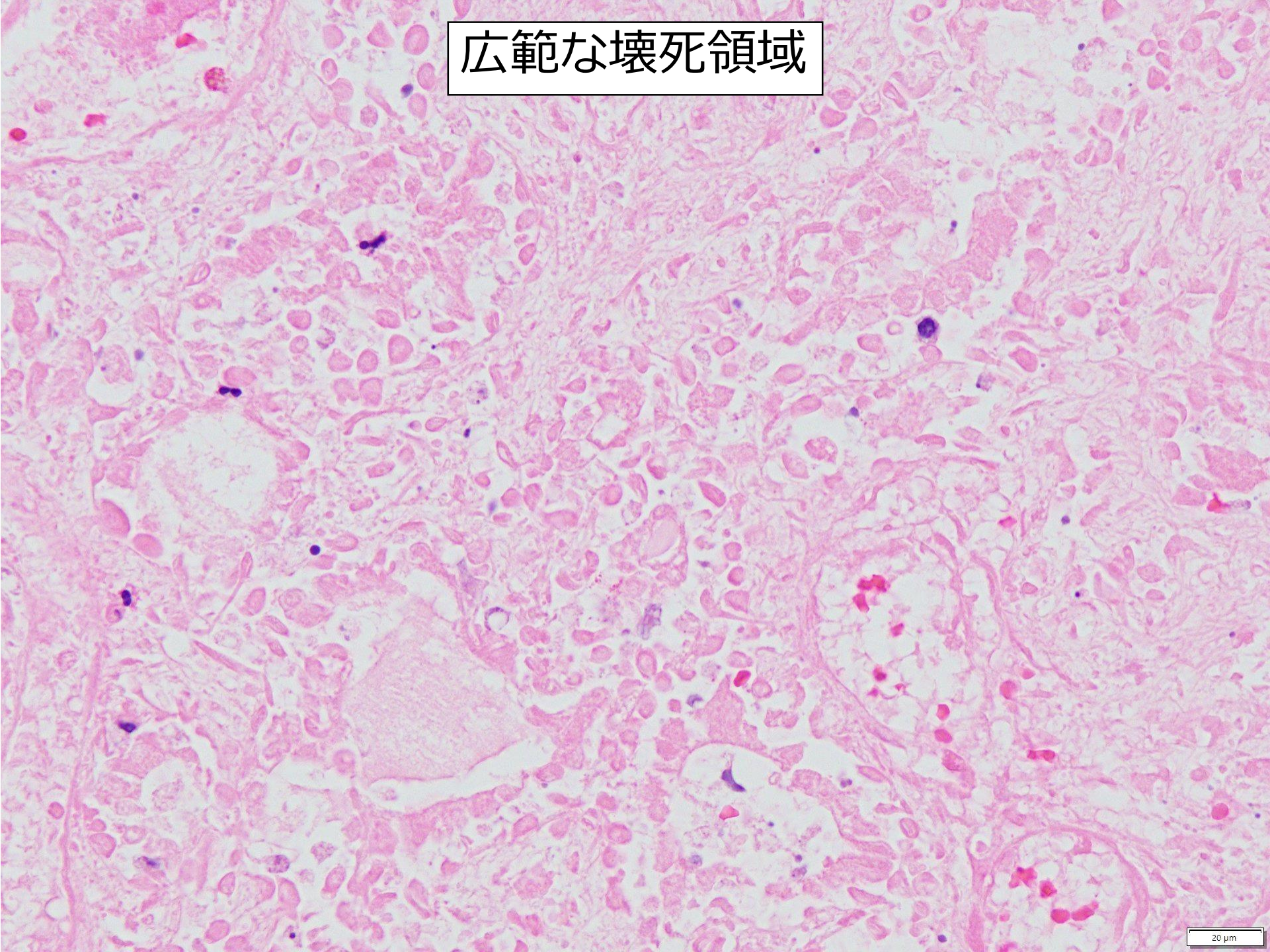


広範な壊死



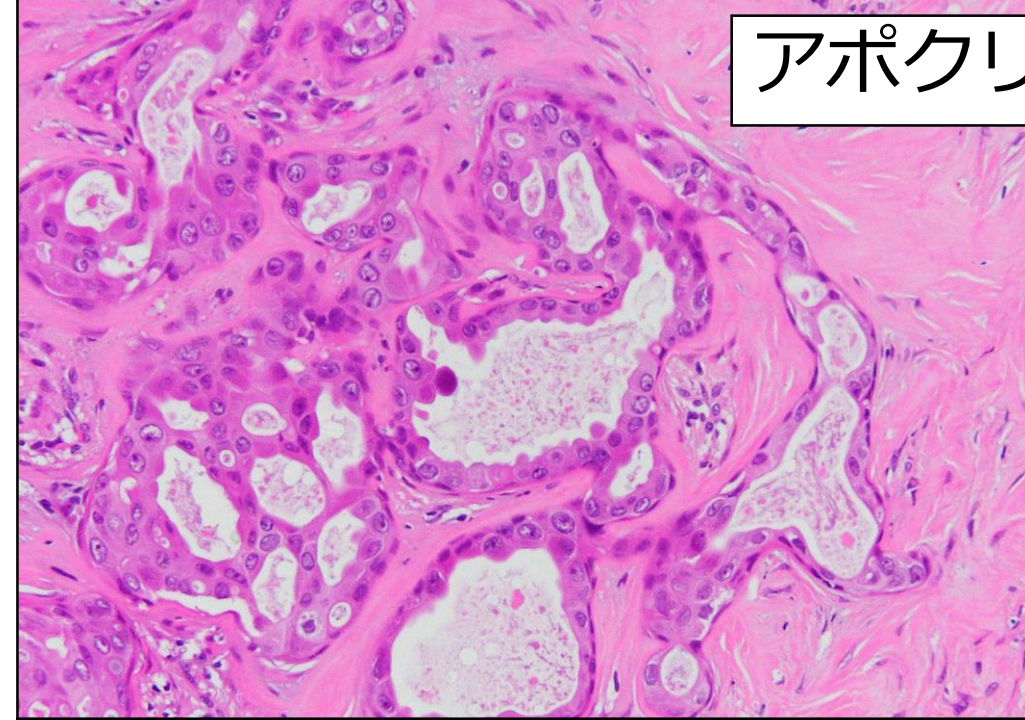
化生・異型を伴う領域

広範な壊死領域

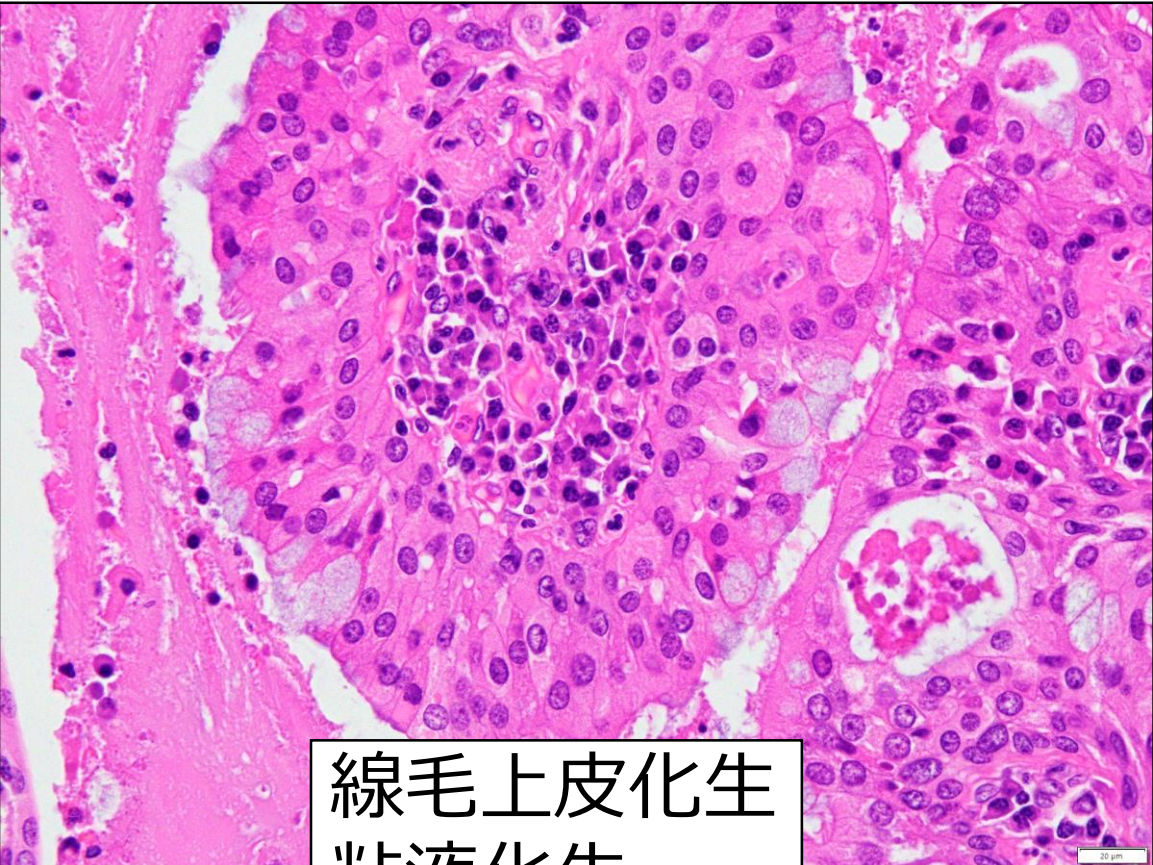
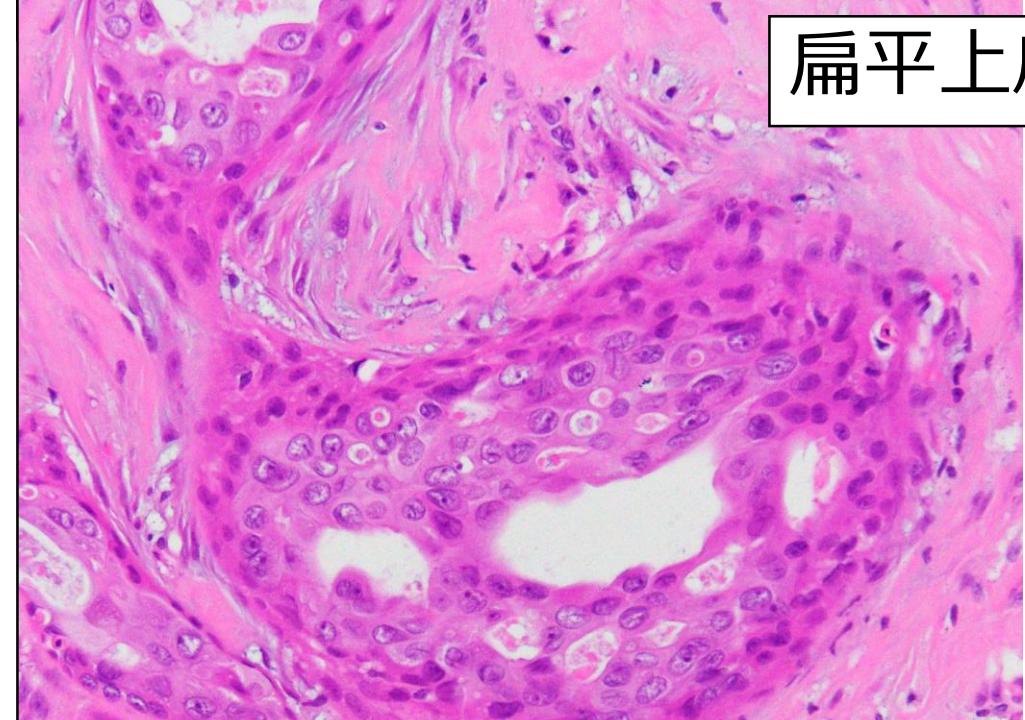


化生を伴う多彩な像を示す領域

アポクリン化生

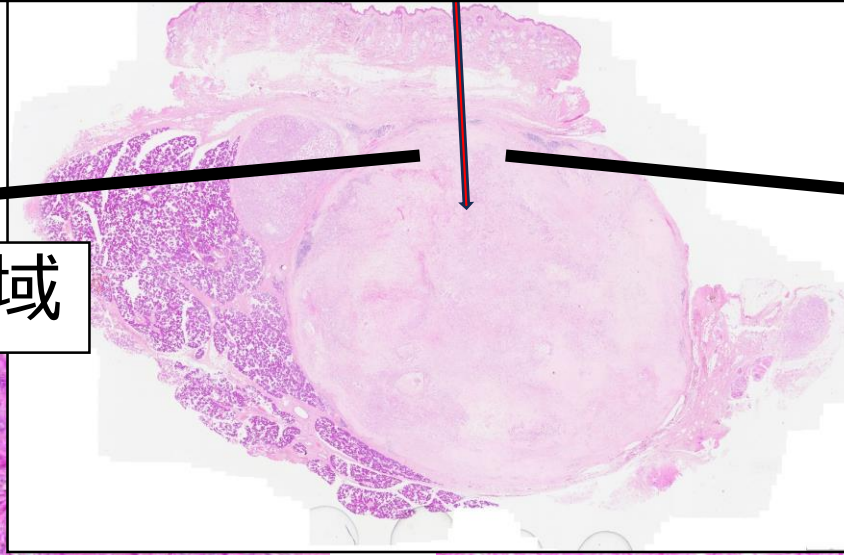


扁平上皮化生

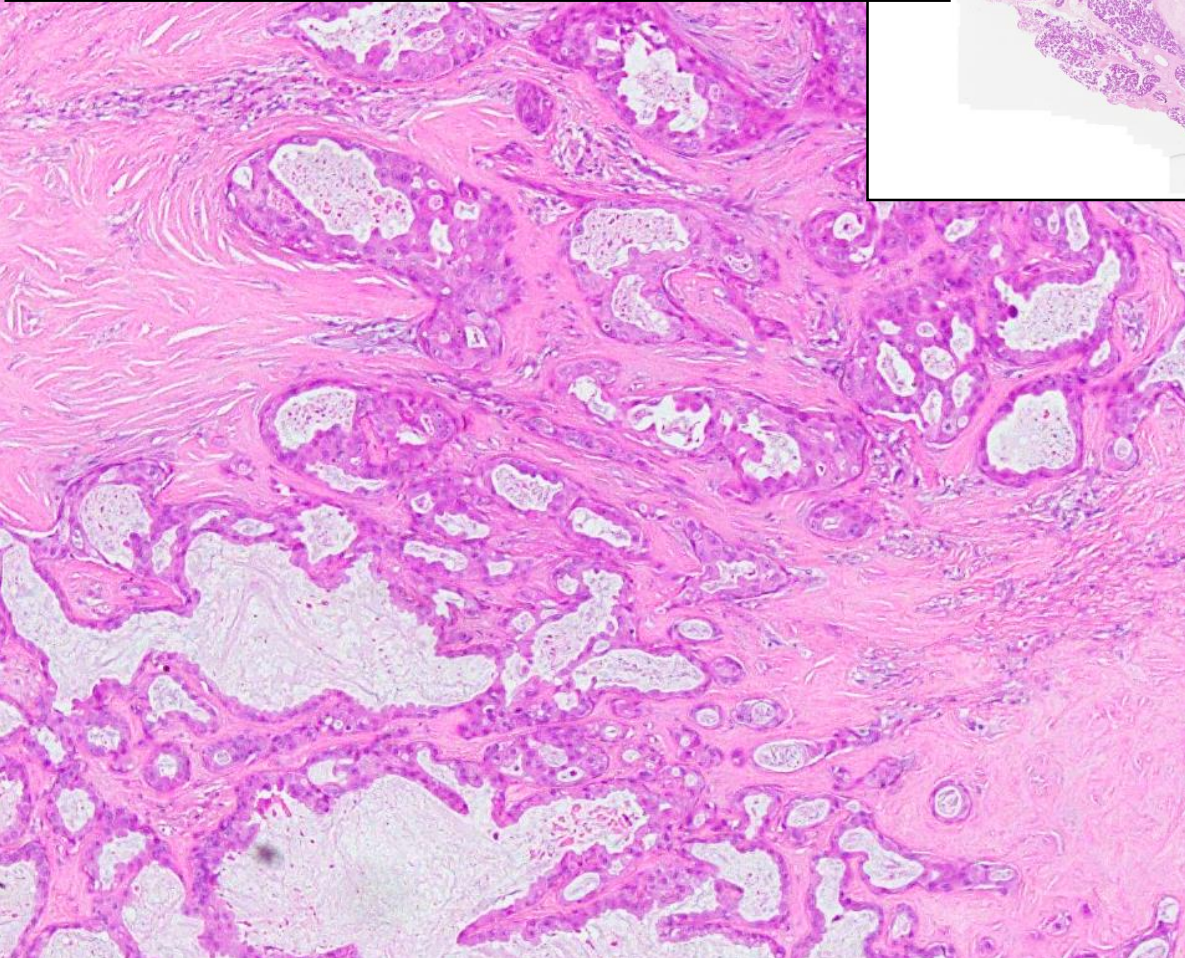


線毛上皮化生
粘液化生

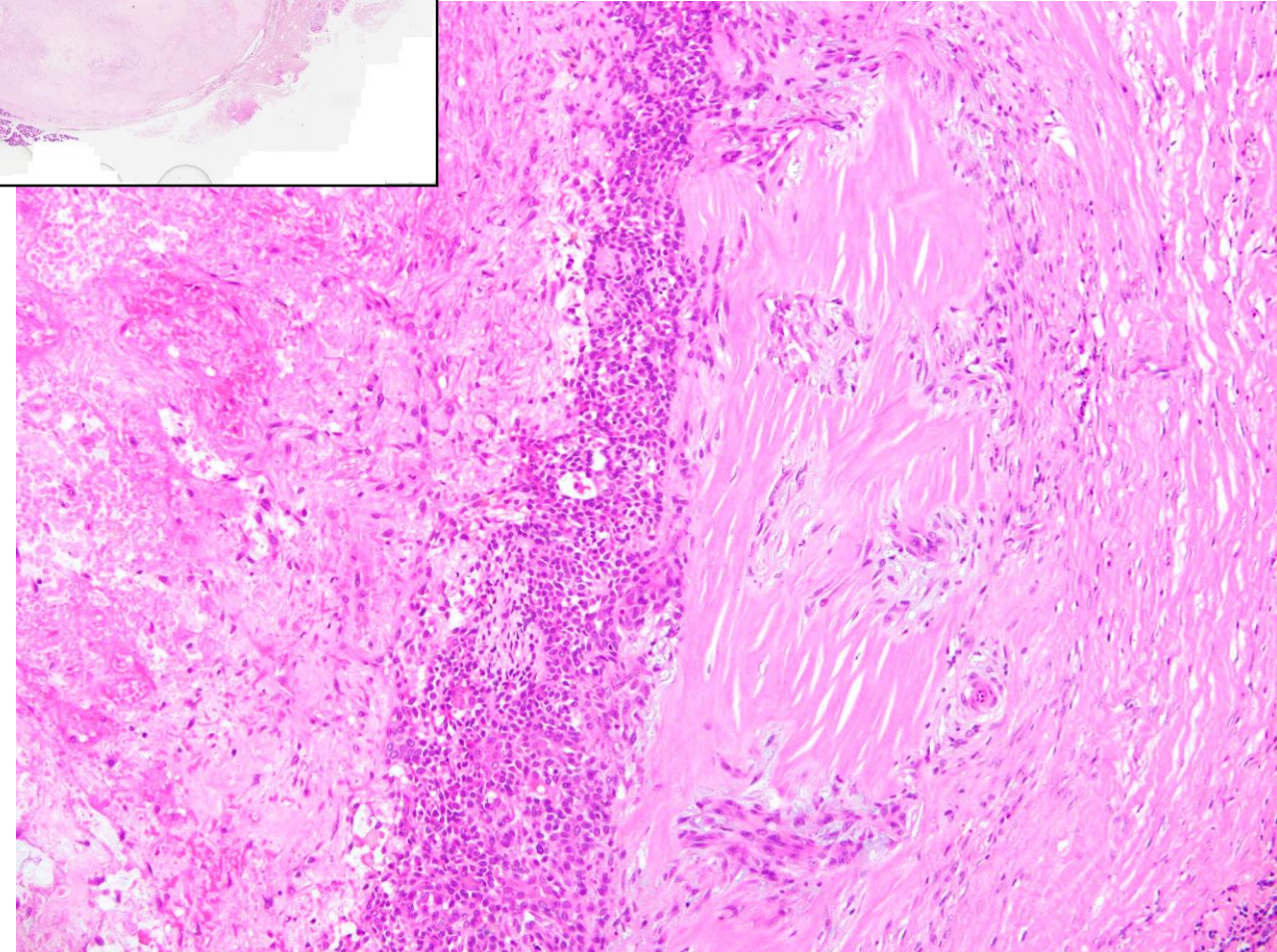
細胞診検体採取時の針の周囲の組織像



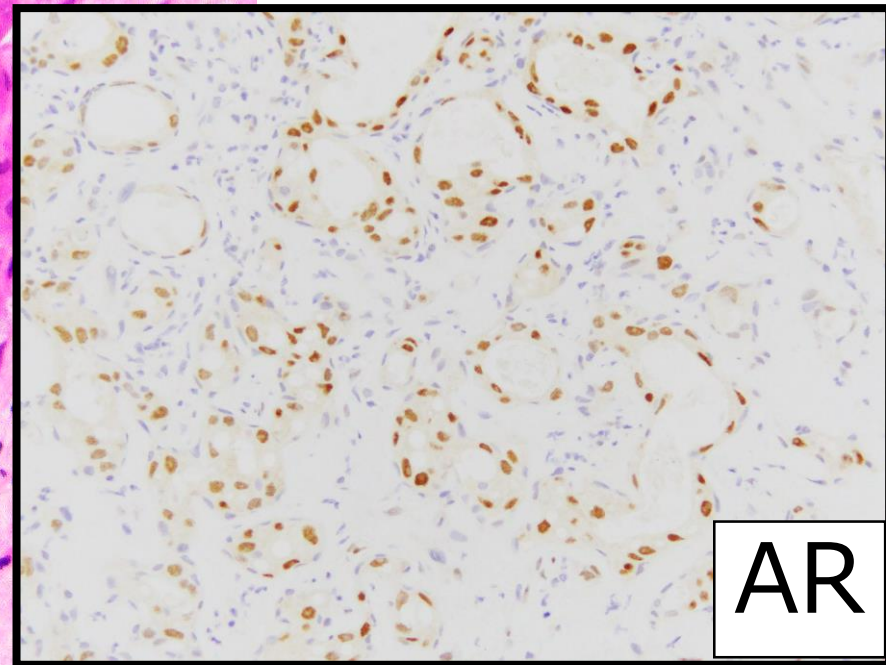
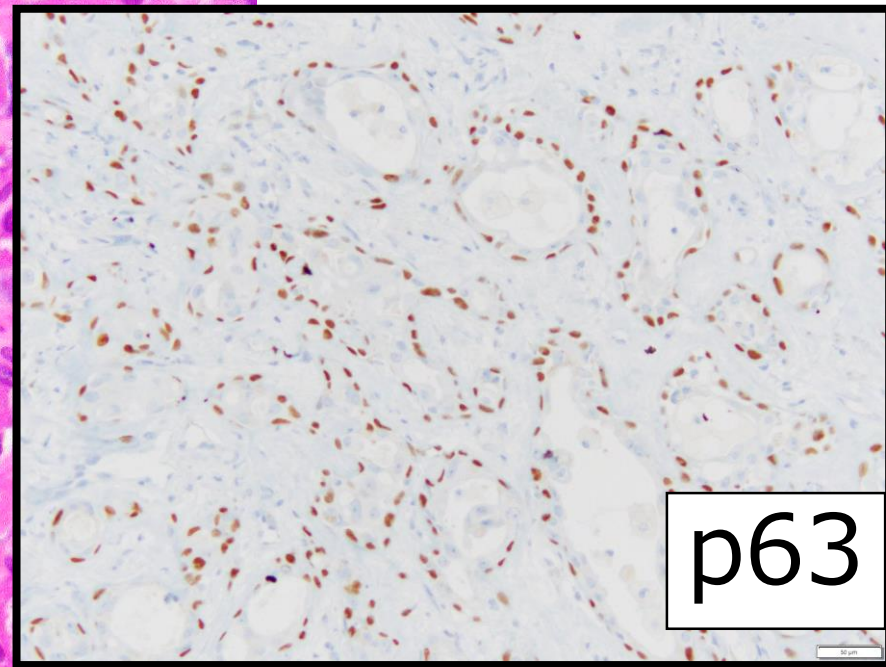
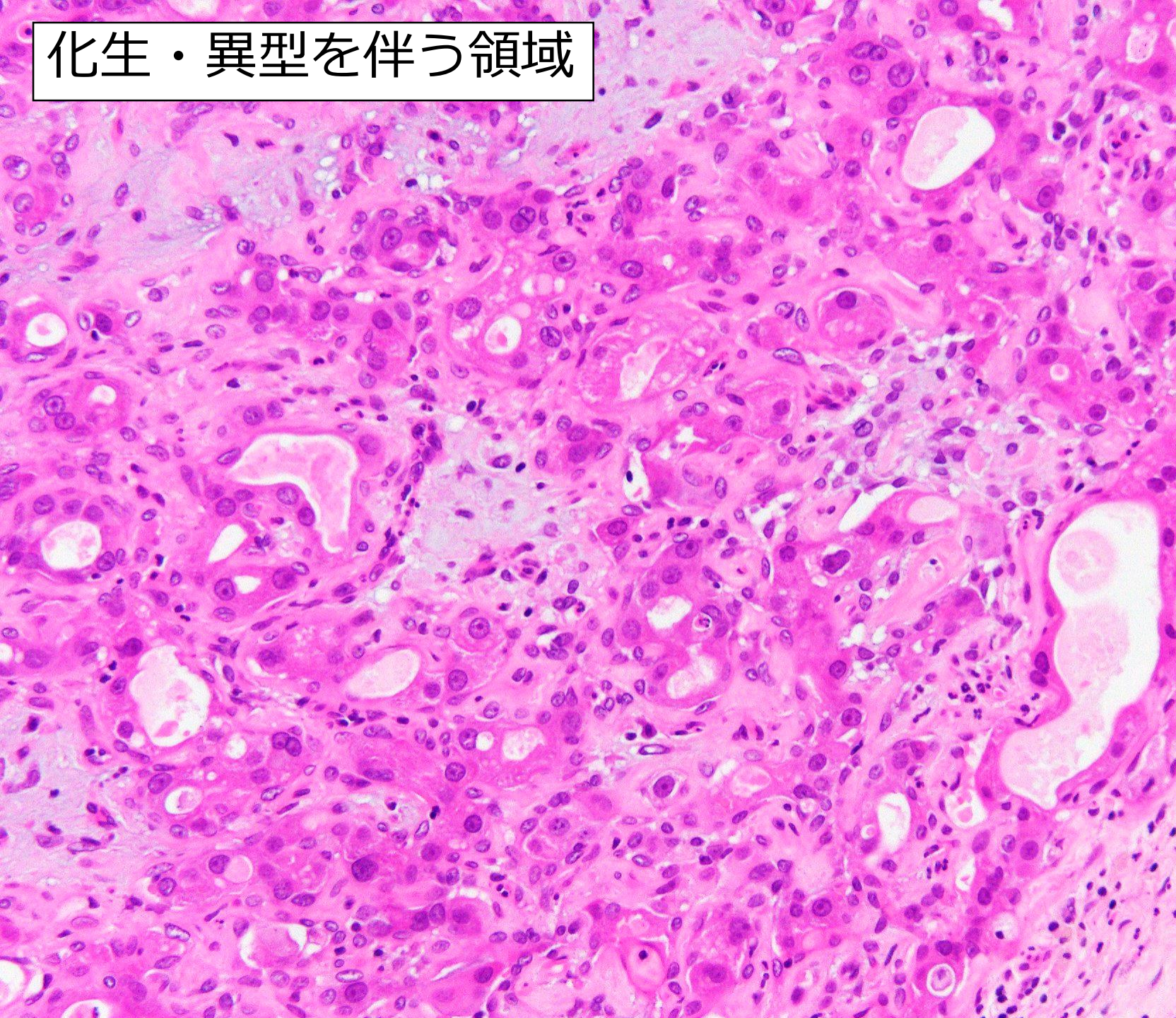
アポクリン化生を伴う領域



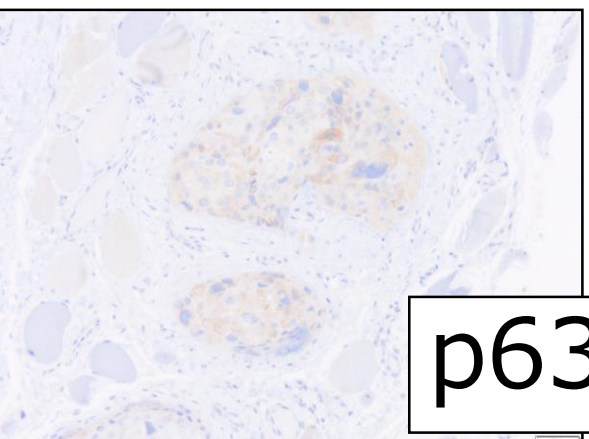
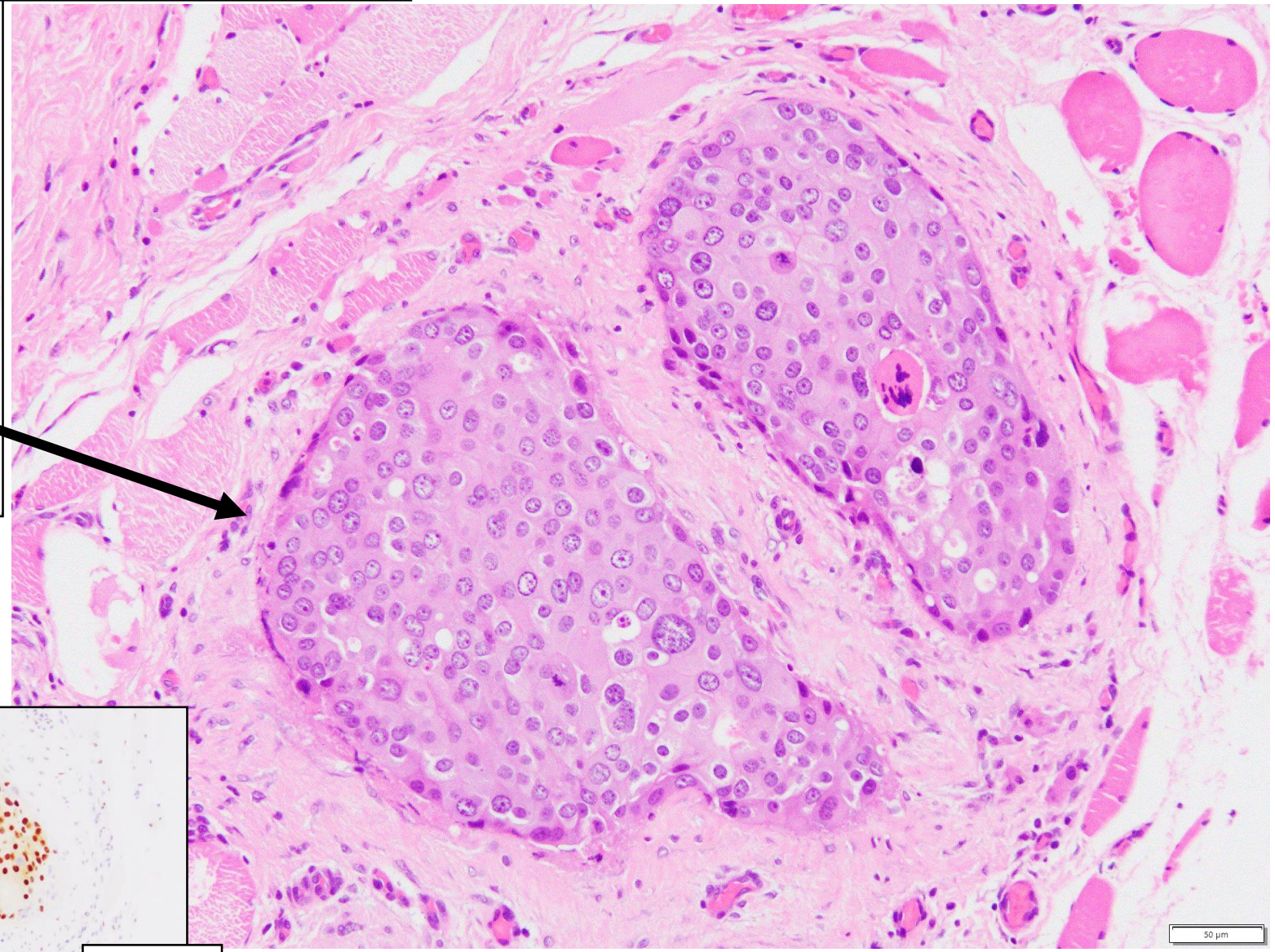
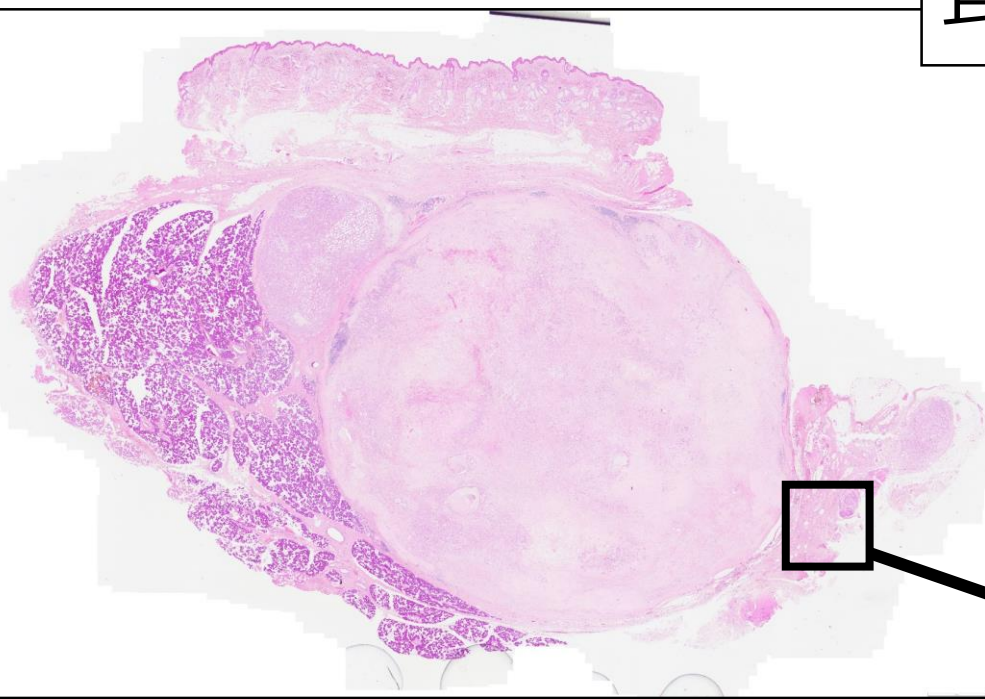
通常の多形腺腫



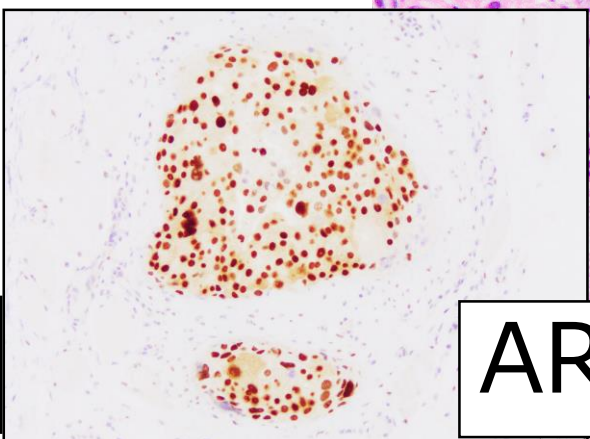
化生・異型を伴う領域



耳下腺外の間質



p63



AR

組織診断

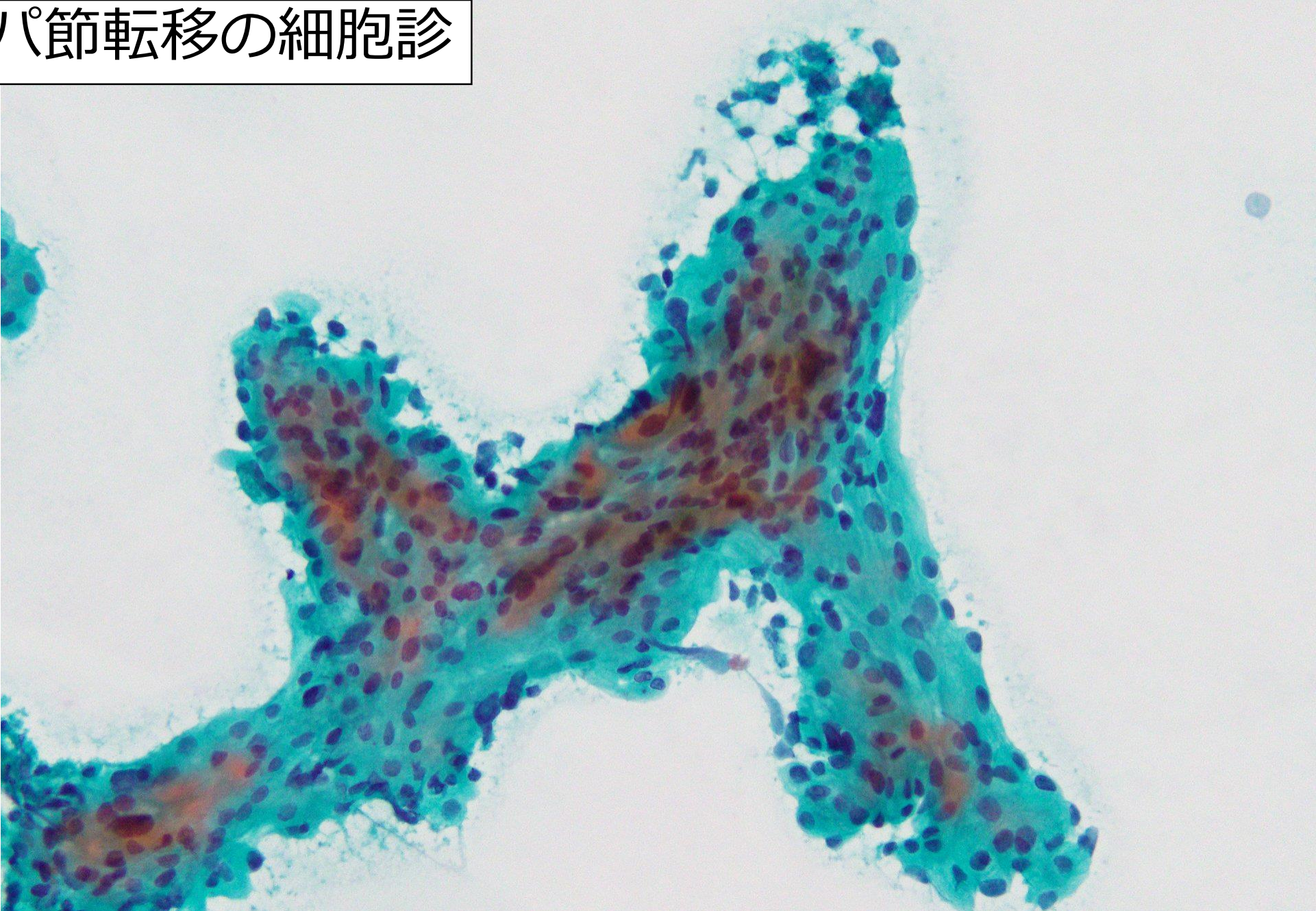
診断：Carcinoma ex pleomorphic adenoma

※唾液腺導管癌

再発転移

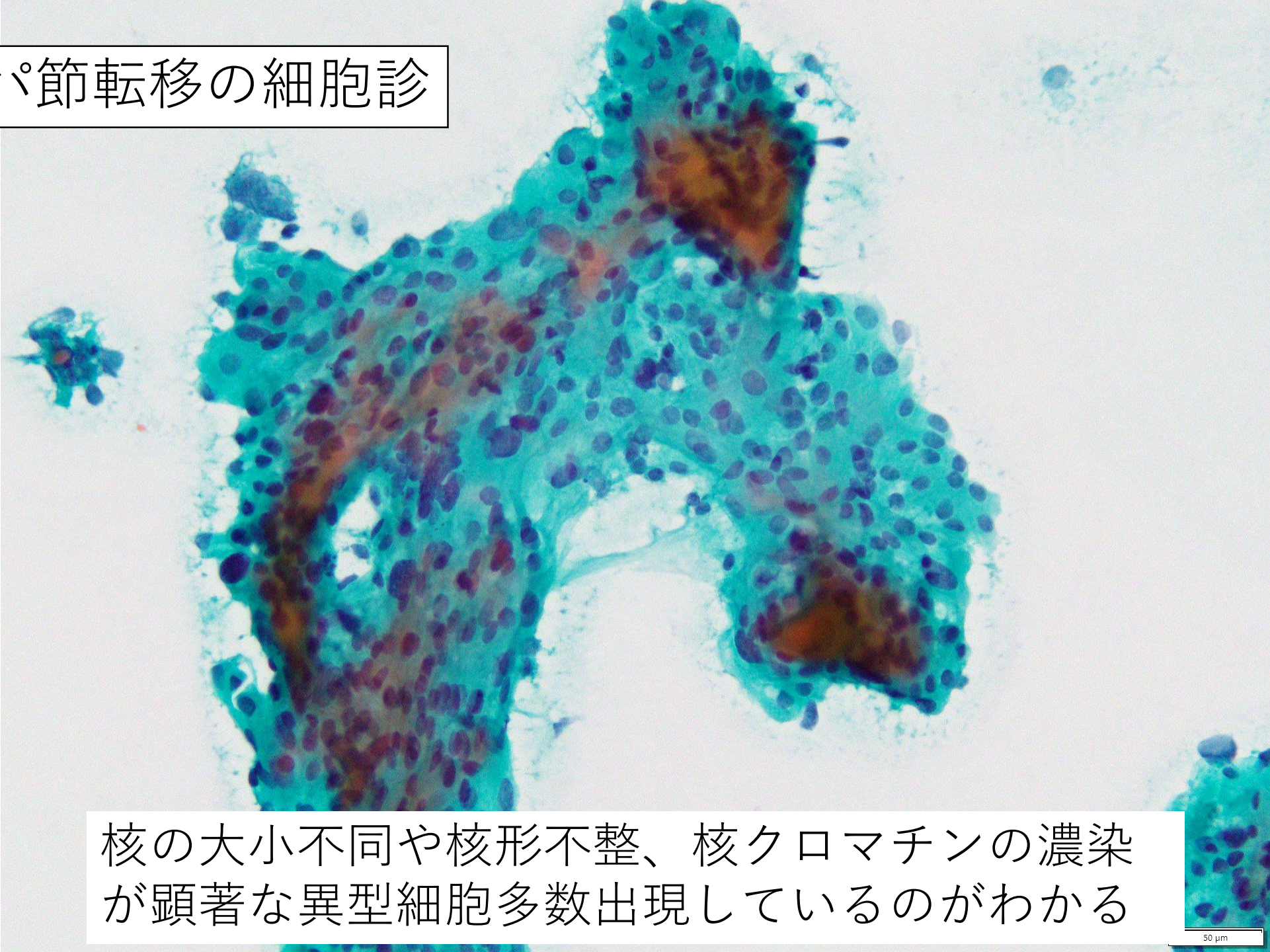
材料：頭頸部リンパ節

リンパ節転移の細胞診



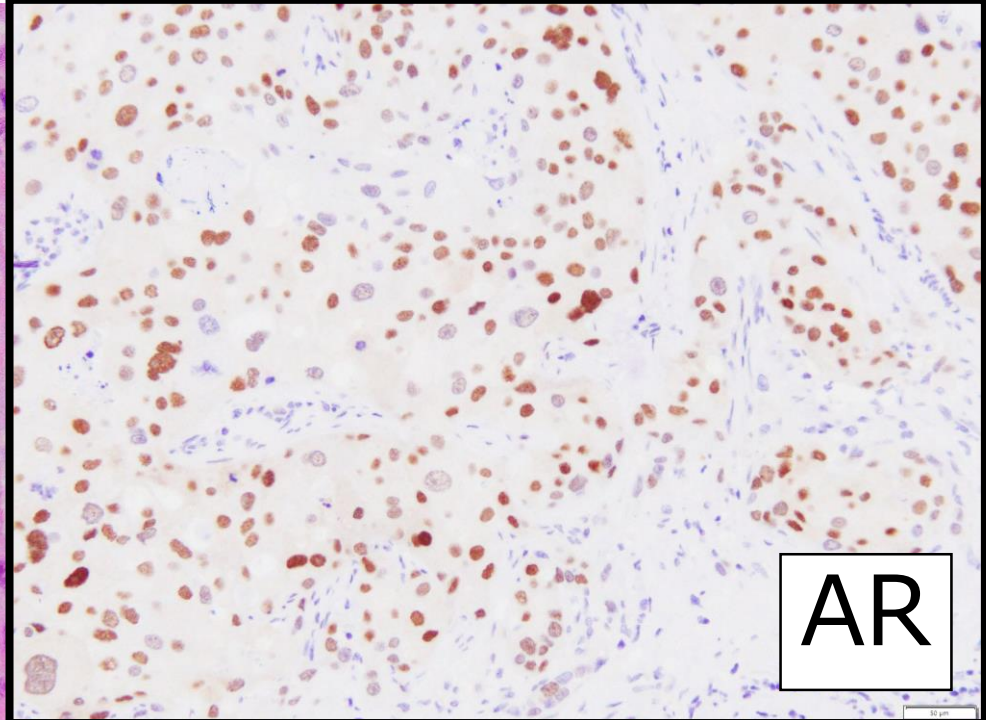
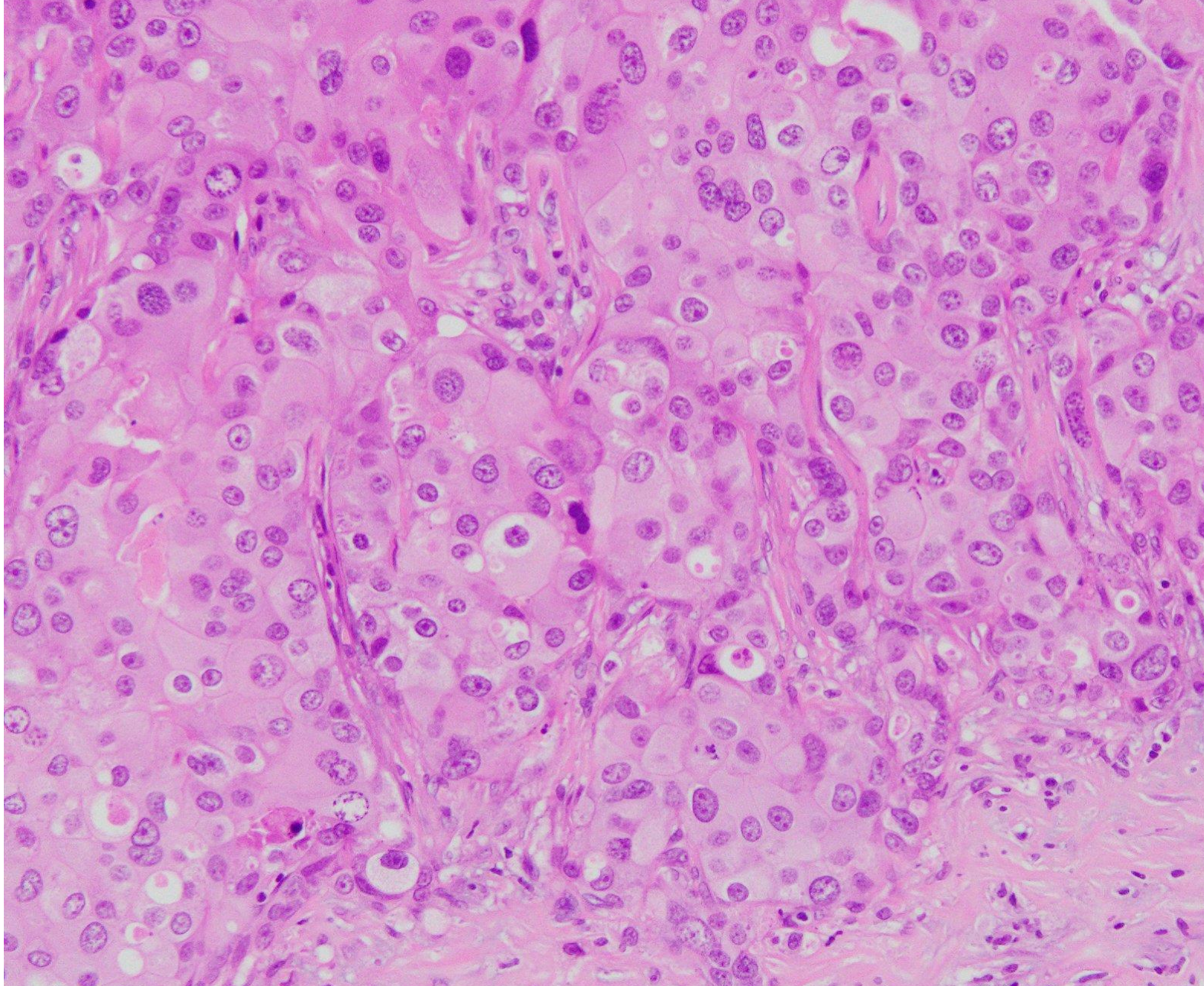
清明な背景に結合性が高く細胞境界不明瞭な集塊がみられる

リンパ節転移の細胞診

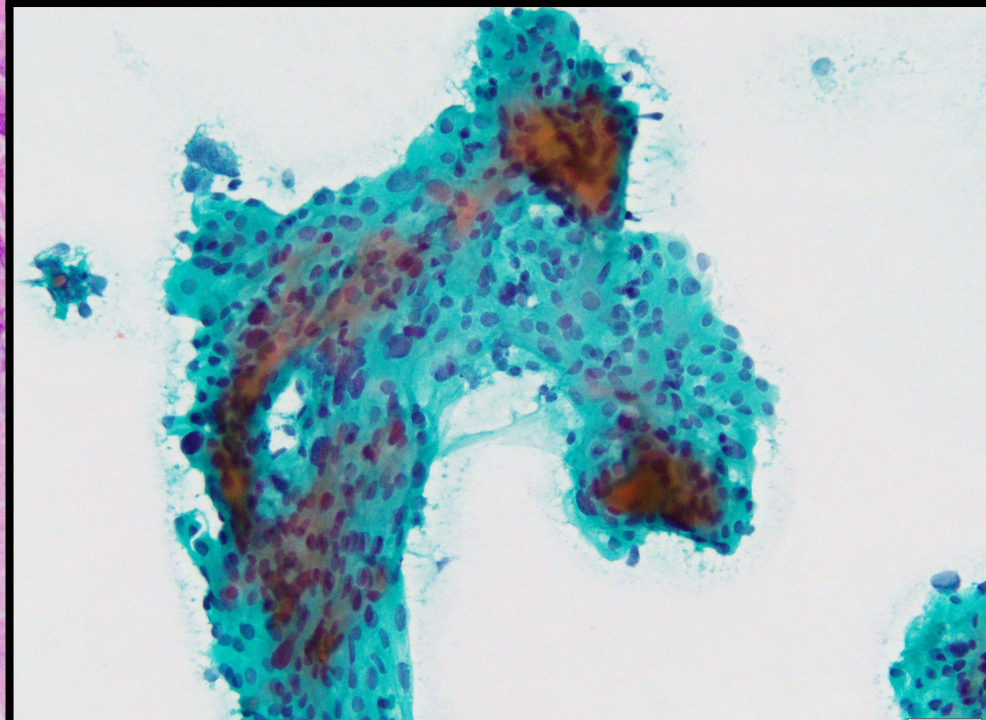


核の大小不同や核形不整、核クロマチンの濃染が顕著な異型細胞多数出現しているのがわかる

リンパ節転移



AR



リンパ節転移 細胞診断・組織診断

細胞診断

✓Class分類：Class V

✓判定：Metastatic carcinoma

組織診断

分類：悪性

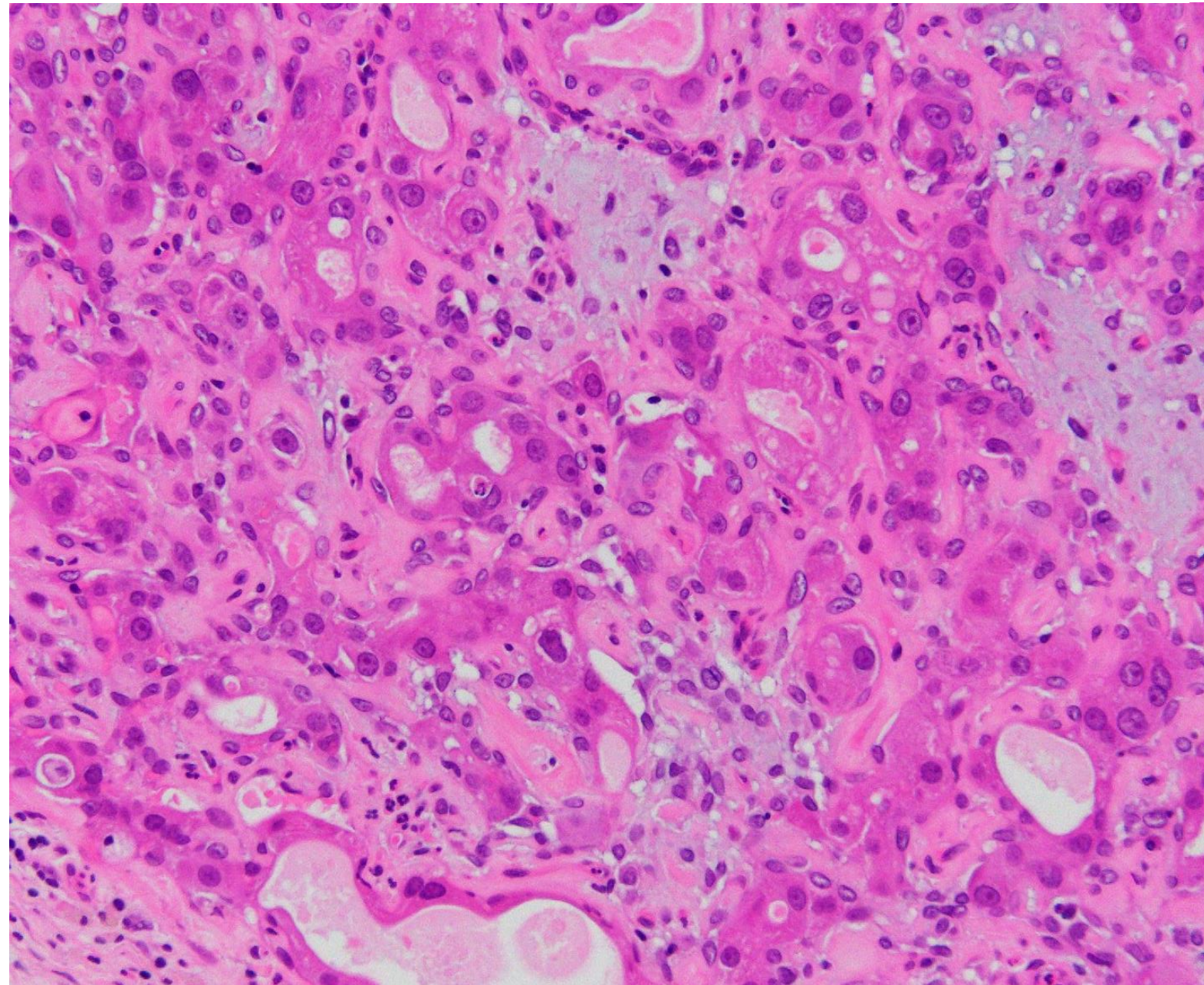
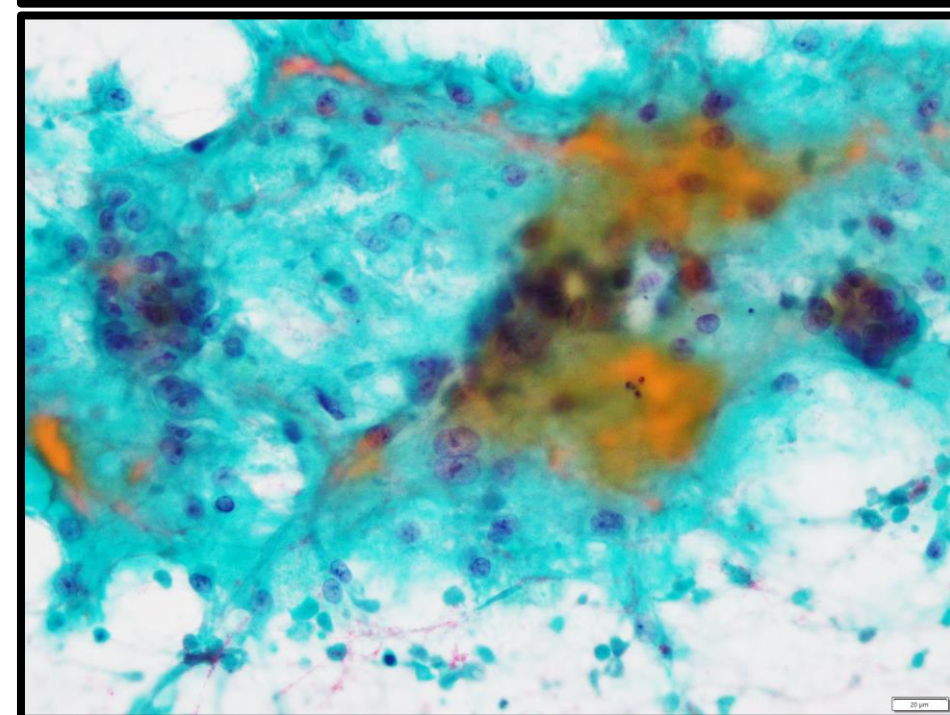
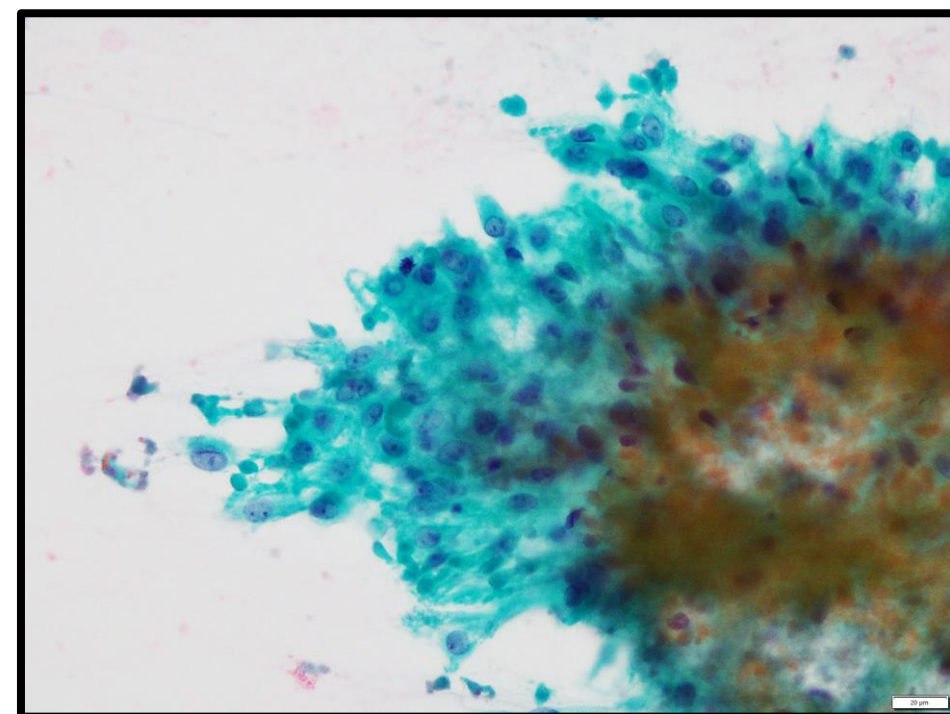
診断：Carcinoma metastasis to
the cervical lymph nodes.
※salivary duct carcinoma

小括

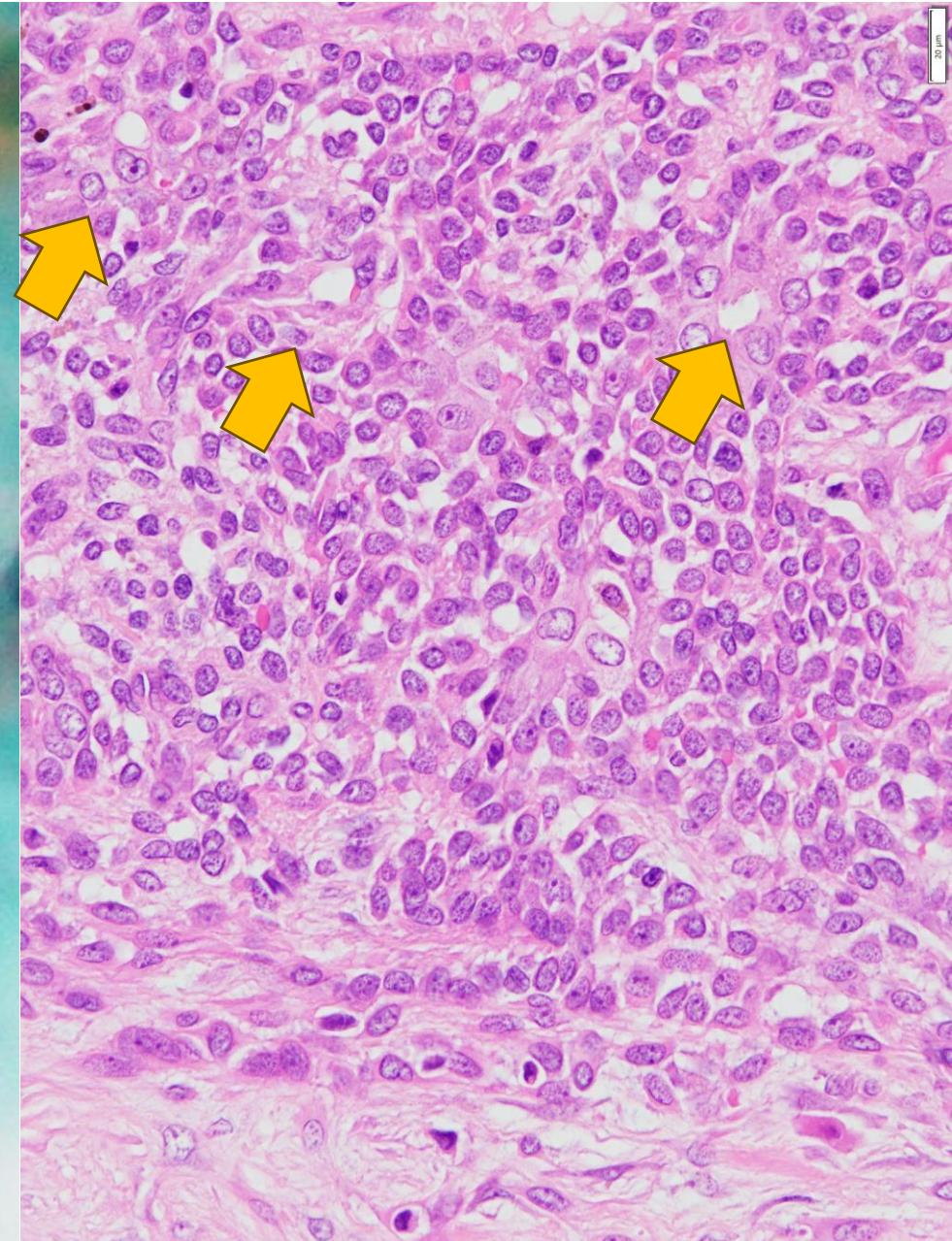
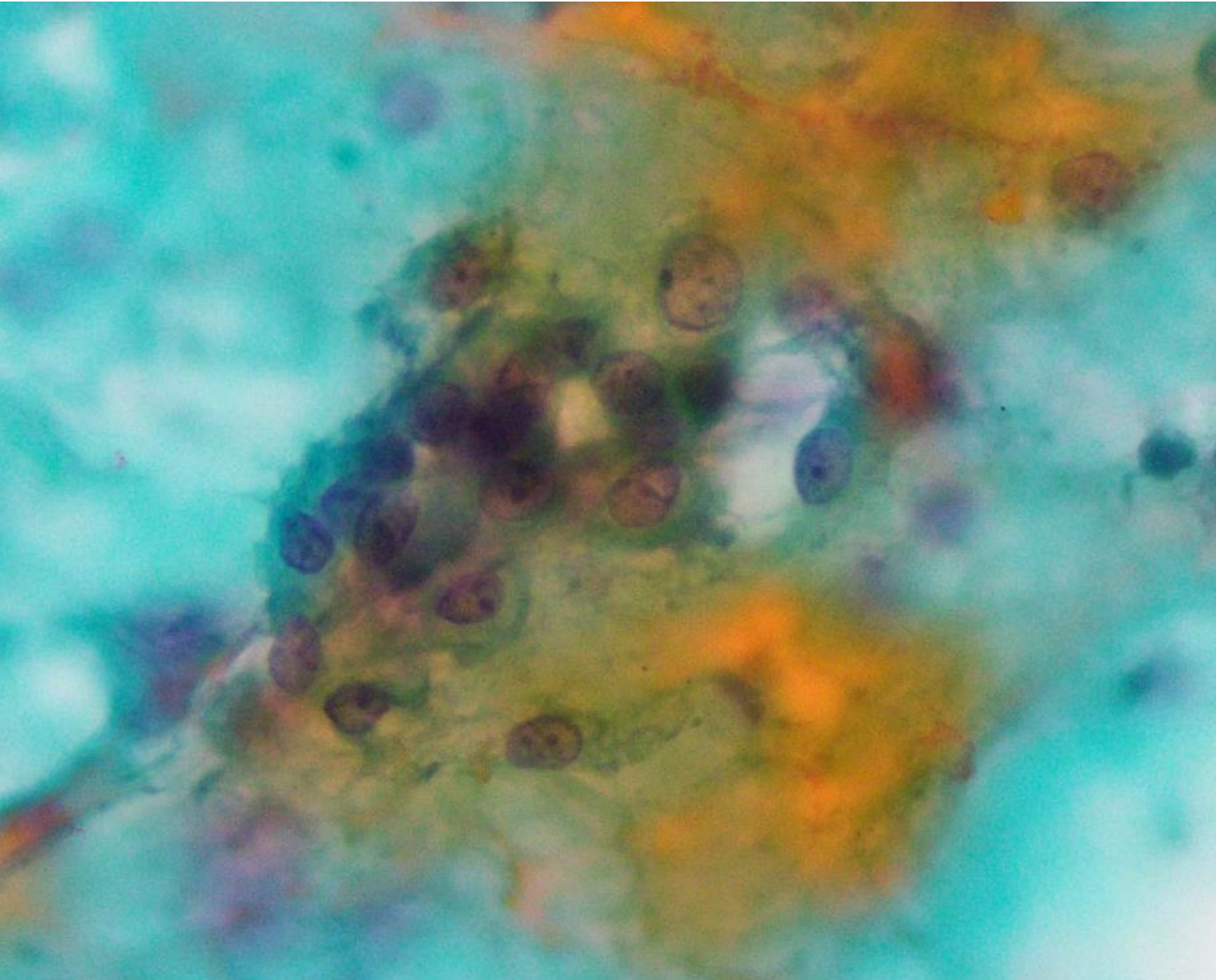
- ✓多形腺腫では、背景に壊死物質が観察されることは稀で、本例の様な多量の壊死を伴う場合には注意深く細胞の観察が必要である。
→本例では多量の壊死のほかに、多形腺腫由来の間質粘液や異型の弱い細胞を認めた。
- ✓軽度の細胞異型がみられ、背景に壊死を伴う場合には悪性も可能性があることを臨床へ伝えることが重要であると考え。

唾液腺導管癌が細胞診断できたのか？

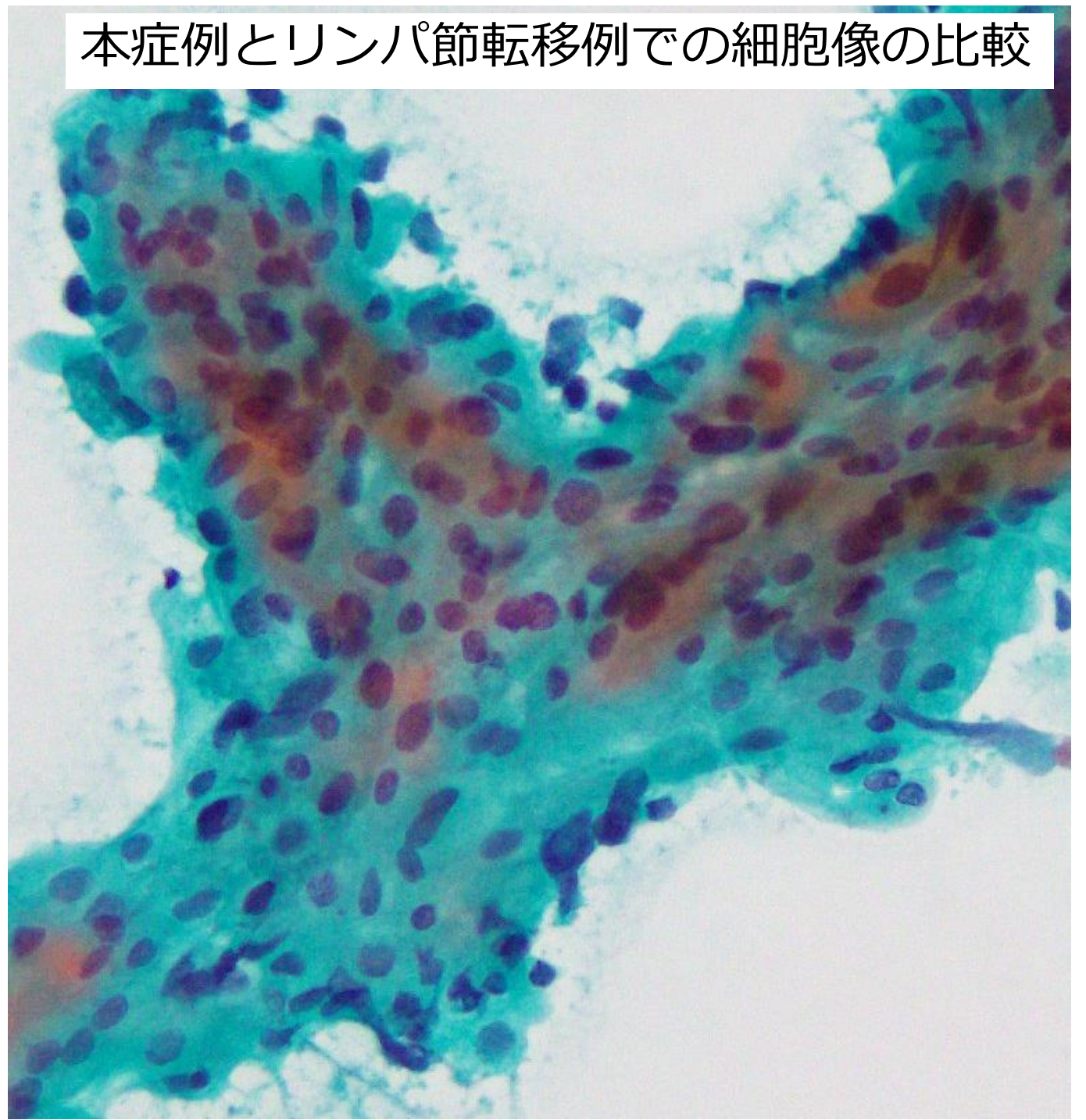
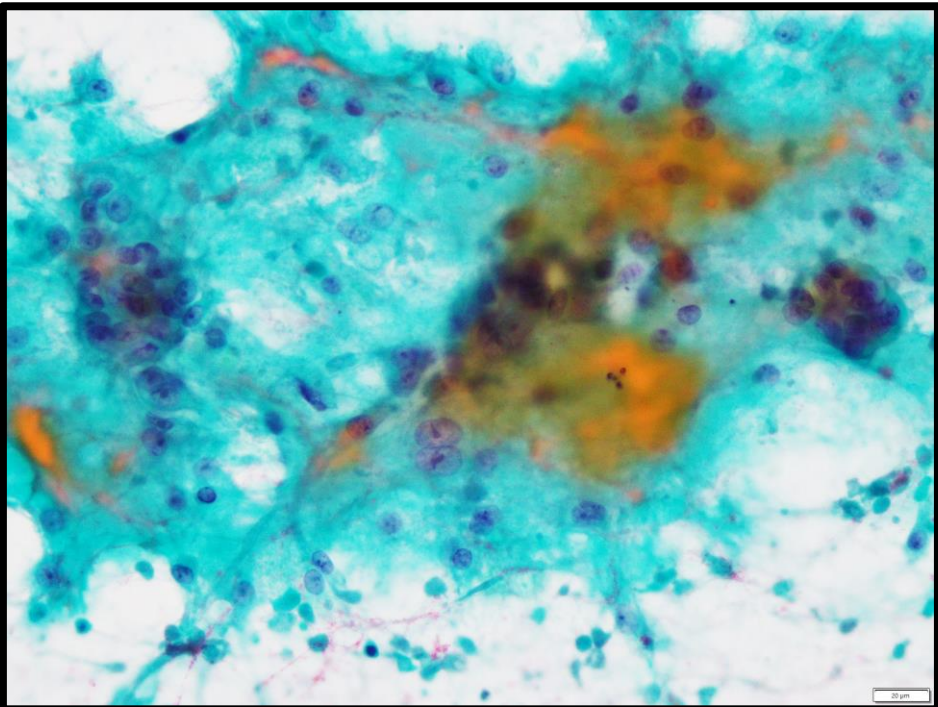
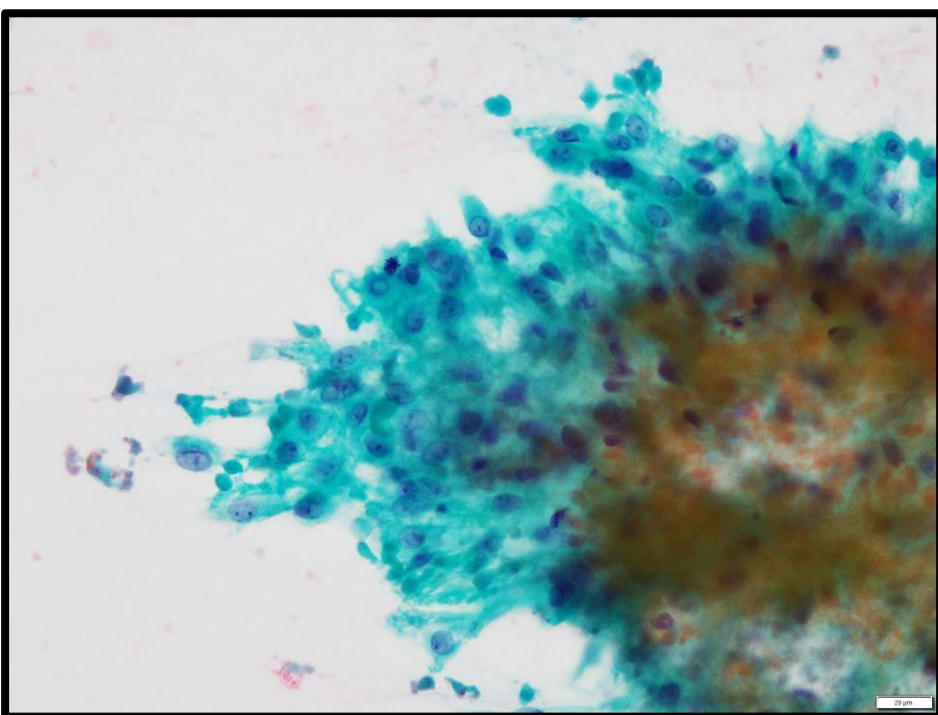
本症例と組織像の細胞像の比較 類似性に乏しい？



腺腔様構造を示す細胞像



本症例とリンパ節転移例での細胞像の比較



まとめ

- 多量の壊死を背景に認めるが、異型細胞が少数のため悪性と判定することが困難であった多形腺腫由来癌の1例を提示した
- 多形腺腫由来癌は悪性唾液腺腫瘍の10%と、遭遇する機会は多い腫瘍であり、鏡検する機会も少なくない
- 多形腺腫の細胞診断時に、壊死が観察されることはまれであり、悪性腫瘍の場合、壊死がしばしばみられる
- 細胞数が過小な場合でも、壊死が多く観察される場合には常に多形腺腫由来癌等悪性の可能性を考え再検査や精査を促すことが重要と考える